

《人づくり分野》

生涯学習部

2019年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
				事業類型	c:その他型

1.組織概要

組織の使命	生涯学習部の総務担当課として適切な部内運営に寄与し、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。また、町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、それらに触れられる機会の提供及び情報の発信により、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。
所管する事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関すること ◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関すること ◆生涯学習審議会、社会教育委員及び文化財保護審議会に関すること ◆文化財の保護、調査及び収集等に関すること ◆考古資料室に関すること

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇図書館、文学館以外の生涯学習施設についても、担うべき役割や機能、最適な運営手法等について検討していく必要があります。
 ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、八幡平遺跡の整備工事と並行して工事が完了した牟場、稻荷山遺跡の公開・活用に取り組む必要があります。
 ◆文化財保護に必要な整備・修繕・管理を行うに当たっては、投資するコストに対して市民からの理解を得ながら事業を進める必要があります。
 ◇これまでの文化財の活用手法に留まらず、新たな活用策の確立に向けた仕掛けが必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇自由民権資料館、生涯学習センターの担うべき役割や機能、最適な運営手法等を整理します。
 ◆文化財保護に対する市民の理解を得るため、現在実施している高ヶ坂石器時代遺跡整備事業の情報発信や、整備が完了した文化財の積極的な活用を行います。
 ◆より多くの方に文化財の魅力を伝えるため、開催時期や場所を工夫しながら、考古資料室等の収蔵資料を活用したアウトリーチ展示を実施します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習審議会の開催回数	回	目標	-	-	-	-	-	町田市生涯学習審議会の年間開催回数
		実績	6	7	6			
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	牟場遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	遺跡整備完了	国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡(牟場遺跡・稻荷山遺跡・八幡平遺跡)整備事業の進捗状況
		実績	牟場遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備		(2025年度)	
考古資料室の見学者数	人	目標	-	4,850	8,440	5,400	-	考古資料室及びアウトリーチ展示年間見学者数
		実績	4,626	6,418	7,162			

◆2019年6月に町田市生涯学習審議会に「町田市生涯学習センターに求められる役割について」を諮問し、6回の会議で議論を深め、2020年2月に答申を受けました。
 ◆インターネットを通じて時間や場所を選ばずに文化財に触れられる機会を創出するため、町田デジタルミュージアムの構築に着手しました。古文書などの歴史資料52点のデジタル画像作成を終了し、ホームページで公開しました。
 ◆高ヶ坂石器時代遺跡については八幡平遺跡の整備工事を実施し、四阿(あずまや)の建築などが完了しました。また、遺跡の紹介と事業の進捗状況について、アウトリーチ展示やホームページを通じて情報発信を行いました。
 ◆考古資料室の収蔵資料を活用したアウトリーチ展示は、「なす原遺跡の縄文時代」展(成瀬会館と市庁舎1階イベントスタジオで開催)や「縄文土器をよむ-文字のない時代からのメッセージ」展(町田市民文学館で開催)の3件を実施し、見学者数が15%(926人)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	98,657	96,654	109,352	12,698	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	709	1,135	1,979	844	保険料	0	0	0	0
物件費	15,409	15,647	19,280	3,633	国庫支出金	16,933	69,302	15,823	△ 53,479
うち委託料	14,434	14,821	17,890	3,069	都支支出金	8,964	12,168	8,360	△ 3,808
維持補修費	8,354	14,785	16,779	1,994	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	473	474	477	3
補助費等	2,468	1,273	4,274	3,001	その他	3	50	1,503	1,453
減価償却費	7,100	10,313	10,775	462	行政収入 小計(a)	26,373	81,994	26,163	△ 55,831
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 116,422	△ 68,325	△ 160,414	△ 92,089
賞与・退職手当引当金繰入額	10,807	11,647	26,117	14,470	金融収支差額 (d)	△ 230	△ 222	△ 209	13
行政費用 小計 (b)	142,795	150,319	186,577	36,258	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 116,652	△ 68,547	△ 160,623	△ 92,076
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 116,652	△ 68,547	△ 160,623	△ 92,076

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費 106,254千円 文化財保護審議会委員報酬 1,152千円 生涯学習審議会委員報酬 974千円 社会教育委員報酬 972千円	決算額の主な内訳	収蔵施設内一般廃棄物・産業廃棄物・運搬処分業務委託 3,218千円 町田デジタルミュージアム構築作業等業務委託 1,783千円 旧永井家・荻野家住宅保守管理業務委託 1,167千円 村野常右衛門生家管理及び清掃業務委託 1,101千円 など
主な増減理由	常勤職員が2名増えたこと等の理由から、人件費が12,880千円増加し、時間外が844千円増加。生涯学習審議会の開催回数が2018年度は7回であったが、2019年度は6回であったため、生涯学習審議会委員報酬が182千円減少。	主な増減理由	資料保管場所を整理するための廃棄物処分委託料が3,218千円増加。町田デジタルミュージアムの構築に着手したため委託料が1,783千円増加。文化財普及関連図書・グッズ及び文化財調査報告書の作成を実施しなかつたため委託料が1,312千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	国庫支出金
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(四期) 16,029千円 旧永井家住宅放水銃修繕 559千円 考古資料室屋外排水修繕 176千円 村野常右衛門生家自動火災報知設備修繕 10千円 考古資料室水栓修繕 5千円	決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 14,021千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,802千円
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡の土木工事が1,630千円増加。4件の修繕を実施したため修繕料が364千円増加。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備では、史跡指定地内の民有地の購入がなかったことから、史跡等購入費補助金が58,866千円減少し、八幡平遺跡に四阿を建築したため整備事業補助金が5,585千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	9,225	11,982	2,757	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	843,761	848,446	4,685	地方債	3,486	5,042	1,556
		土地	708,422	708,422	0	賞与引当金	5,739	6,940	1,201
		建物(取得価額)	318,634	333,632	14,998	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	△ 183,295	△ 193,608	△ 10,313	固定負債	133,010	139,442	6,432
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	52,180	47,138	△ 5,042
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	80,830	92,304	11,474	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	142,235	151,424	9,189
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	706,563	698,870	△ 7,693	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	2,728	0	△ 2,728	純資産の部合計	706,563	698,870	△ 7,693		
その他の固定資産	2,309	1,848	△ 461	負債及び純資産の部合計	848,798	850,294	1,496		
資産の部合計	848,798	850,294	1,496						

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	建設仮勘定	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡)覆屋 27,293千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平)四阿 14,998千円 など	決算額の主な内訳	建設仮勘定 0千円	決算額の主な内訳	土製耳飾リプリカ 1,848千円
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平)四阿の建築が完了したことにより、14,998千円増加。 減価償却により、10,313千円減少。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平)四阿の建築が完了し、設計費用を事業用資産へ計上したことにより、2,728千円減少。	主な増減理由	減価償却により、461千円減少。

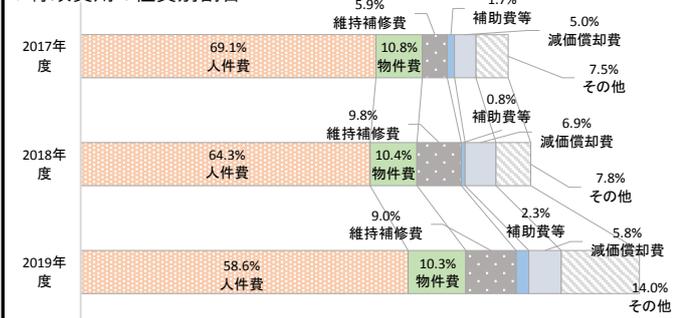
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	26,163	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	163,337	社会資本整備等投資活動支出	12,271	財務活動支出	3,486
行政サービス活動収支差額(a)	△ 137,174	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 12,271	財務活動収支差額(c)	△ 3,486
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 152,931
				一般財源充当調整額	152,931

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2019 合計	2018 合計
生涯学習審議会事務	1.0					1.0	1.3
生涯学習総務課管理事務	5.3					5.3	3.9
文化財保護事務	4.5		0.9			5.4	4.5
考古資料室管理事務	0.2		0.1			0.3	0.3
						0.0	0.0
2019年度 歳出目 合計	11.0	0.0	1.0	0.0	0.0	12.0	10.0
2018年度 歳出目 合計	9.0	0.0	1.0	0.0	0.0	10.0	

6.個別分析

時間外勤務の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国、都からの補助金の交付額が要額を下回ったため、一部整備内容を変更し、実施しました。
- ◆町田デジタルミュージアム構築では、歴史資料を撮影しデジタル化を行い、その成果をホームページ上で公開しました。
- ◆アウトリーチ展示を3件実施し、特に町田市民文学館での展示では、厳選した考古資料200点以上を展覧したこともあり好評で、見学者数は15%(926人)増加しました。一方で考古資料室見学者数は、主要な展示資料を長期間アウトリーチ展示に展覧した影響もあり42%(182人)減少しました。
- ◆部内の業務効率化を図るため、庶務関連業務の部内マニュアルの整備を行いました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇自由民権資料館及び町田市生涯学習センターの役割や事業を整理し、効率的・効果的な管理運営手法について検討する必要があります。
- ◇高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要額を下回ったときに事業への影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。
- ◇町田デジタルミュージアムの構築では、誰が見ても分かりやすい資料の掲載方法や、掲載資料の実物を見学したいという要望に応えるための新たな公開方法等について検討する必要があります。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇自由民権資料館及び町田市生涯学習センターのあり方見直し検討を行います。
- ◇高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要額を下回った場合でも、公開・活用ができる範囲を広げられるよう事業計画を検討します。
- ◇町田デジタルミュージアムの構築では、市民へ町田の歴史をわかりやすく発信するため、町田の通史を再検証します。また、掲載する資料の実物に触れられる機会をつくるなど、考古・歴史・民俗資料を積極的に公開・活用します。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型
------	---------	-------	---------	------	--------

1.事業概要

事業目的	町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。				
基本情報	根拠法令等 文化財保護法、東京都文化財保護条例、町田市文化財保護条例及び同施行規則、町田市文化財保護事業費補助金交付要綱				
		2017年度	2018年度	2019年度	
	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	牟場遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	
	町田デジタルミュージアム進捗状況			歴史資料構築・公開	

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は工事が完了した牟場、稲荷山遺跡の公開・活用と併せて、整備中の八幡平遺跡についての情報発信にも取り組む必要があります。
- ◆文化財保護に必要な整備・修繕を行うに当たっては、投資するコストに対して市民からの理解を得ながら事業を進める必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆文化財保護に対する市民の理解を得るため、現在実施している高ヶ坂石器時代遺跡整備事業の情報発信や、整備が完了した文化財の積極的な活用を行います。
- ◇より多くの方に史跡や文化財の魅力を伝えるため、開催場所や実施方法を工夫し、新たな情報発信やイベントを検討・実施します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	牟場遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	遺跡整備完了(2025年度)	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牟場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	牟場遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備			
町田デジタルミュージアム構築進捗状況	-	目標	-	-	歴史資料構築・公開	考古資料構築・公開	全面公開(2022年度)	町田デジタルミュージアム構築の進捗状況
		実績	-	-	歴史資料構築・公開			

成果の説明
 ◆高ヶ坂石器時代遺跡については八幡平遺跡の整備工事を実施し、四阿(あずまや)の建築などが完了しました。また、遺跡の紹介と事業の進捗状況についてアウトリーチ展示やホームページを通じて情報発信を行いました。
 ◆インターネットを通じて時間や場所を選ばずに文化財に触れられる機会を創出するため町田デジタルミュージアムの構築に着手し、歴史資料の撮影・デジタル化を完了して、その成果をホームページで公開しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額	勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	40,918	40,690	46,202	5,512	地方税	0	0	0	0
物件費	9,675	13,467	17,033	3,566	国庫支出金	16,933	69,302	15,823	△ 53,479
うち委託料	9,452	13,293	16,312	3,019	都支出金	8,964	12,168	8,360	△ 3,808
維持補修費	8,181	14,761	16,598	1,837	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	468	470	463	△ 7
補助費等	2,443	1,248	4,249	3,001	その他	0	50	1,503	1,453
減価償却費	4,405	7,618	7,618	0	行政収入 小計(a)	26,365	81,990	26,149	△ 55,841
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 41,552	△ 224	△ 76,440	△ 76,216
賞与・退職手当引当金繰入額	2,295	4,430	10,889	6,459	金融収支差額 (d)	△ 230	△ 222	△ 209	13
行政費用 小計 (b)	67,917	82,214	102,589	20,375	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 41,782	△ 446	△ 76,649	△ 76,203
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	6,028	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	6,028	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 35,754	△ 446	△ 76,649	△ 76,203

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費(埋蔵文化財保護、文化財の活用・普及、史跡整備など) 45,050千円 文化財保護審議会委員報酬 1,152千円	決算額の主な内訳	収蔵施設内産業廃棄物処分業務委託 3,218千円 町田デジタルミュージアム構築作業等業務委託 1,783千円 旧永井家・荻野家住宅保守管理業務委託 1,167千円 など
主な増減理由	常勤職員が1名増えたため人件費が5,512千円増加。	主な増減理由	博物館資料受入のために廃棄物処分委託料が3,218千円増加。 町田デジタルミュージアムの構築に着手したため委託料が1,783千円増加。普及関連図書等の作成委託料が1,312千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	国庫支出金
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(四期) 16,029千円 旧永井家住宅放水銃修繕 559千円 村野常右衛門生家自動火災報知設備修繕 10千円	決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 14,021千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,802千円
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡の土木工事費が1,630千円増加。文化財2件の修繕を実施したため修繕料が207千円増加。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備では史跡指定地内の民有地の購入がなかったことから史跡等購入費補助金が58,866千円減少し、四阿を建築したため整備事業補助金が5,585千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
		2019				
		2018				
		2017				
		2019				
		2018				
		2017				
		2019				
		2018				
		2017				

④貸借対照表

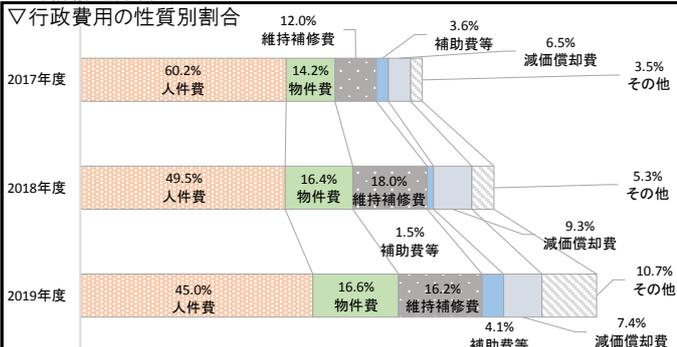
(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	5,805	7,868	2,063
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	732,357	739,736	7,379	地方債	3,486	5,042	1,556
	土地	653,734	653,734	0	賞与引当金	2,319	2,826	507
	建物(取得価額)	187,492	202,490	14,998	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 108,869	△ 116,488	△ 7,619	固定負債	84,835	84,721	△ 114
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	52,180	47,138	△ 5,042
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	32,655	37,583	4,928
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	90,640	92,589	1,949
工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	644,445	647,147	2,702	
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	2,728	0	△ 2,728	純資産の部合計	644,445	647,147	2,702	
その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	735,085	739,736	4,651	
資産の部合計	735,085	739,736	4,651					

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	建設仮勘定	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牟場遺跡)覆屋 27,293千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平)四阿 14,998千円 旧永井家住宅 14,461千円 など	決算額の主な内訳	建設仮勘定 0千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平)四阿の建築が完了したことにより、14,998千円増加。減価償却により、7,619千円減少。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平)四阿の建築が完了し、設計費用を事業用資産へ計上したことにより、2,728千円減少。	主な増減理由	

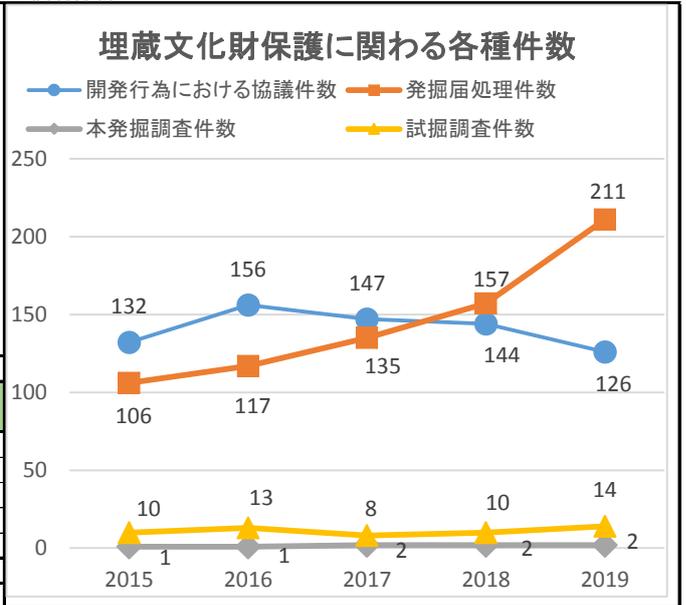
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	(単位:人)	
						2019 合計	2018 合計
文化財保護審議会事務局事務	0.3					0.3	0.2
文化財保護事務	1.1					1.1	0.8
文化財整備保存事業	0.9					0.9	0.8
埋蔵文化財保護事業	0.9		0.6			1.5	1.4
文化財復旧事業	1.3		0.3			1.6	1.2
2019年度 特定事業 合計	4.5	0.0	0.9	0.0	0.0	5.4	4.4
2018年度 特定事業 合計	3.5	0.0	0.9	0.0	0.0	4.4	

6.個別分析



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国、都から補助(対象経費の75%)を受けていますが、補助金の交付額が要望額を下回ったため、整備内容を変更して八幡平遺跡の四阿建築などを実施しました。
- ◆町田デジタルミュージアム構築では、古文書などの歴史資料を撮影しデジタル化を行い、その成果をホームページ上で公開しました。
- ◆埋蔵文化財保護事業では、発掘届処理件数が34%増加(54件増加)して211件になりましたが、「埋蔵文化財に関する手続きについて」のホームページ案内を分かりやすく見直したことで、窓口案内件数が減り、事業に関わる人員は0.1人の増加にとどまり、事業の効率化につながりました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回ったときに、事業への影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。
- ◆町田デジタルミュージアム構築では、掲載する資料の実物を見学したいという要望に応えられるよう公開・活用方法を検討する必要があります。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回った場合でも、公開・活用ができる範囲を少しでも広げられる事業計画を検討します。
- ◆町田デジタルミュージアムに掲載する資料をアウトリーチ展示や考古資料室と自由民権資料館における常設展示などで積極的に公開・活用します。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業	事業類型	2:施設運営型
------	---------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的	町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようになります。
------	---

基本情報	根拠法令等 町田市考古資料室の公開に関する要領							
		2017年度	2018年度	2019年度	施設の名称	町田市考古資料室		
	考古資料室見学者数	521	437	255	建設年月日	1991年3月16日		
	アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	3(4,105)	4(5,981)	3(6,907)		2017年度	2018年度	2019年度
				有形固定資産減価償却率	54.7%	55.8%	58.1%	

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆考古資料室見学者数は2011年度から毎年増加し、2017年度(開室日数71日)は500人を超えましたが、2018年度は減少しています。アウトリーチ展示の見学者数は大幅な増加となっておりますが、規模の大きいアウトリーチ展示を実施する際には考古資料室の主要な展示品を持ち出すことになるため、展示内容について工夫が必要です。
◆アウトリーチ展示の際には、移送・展示等における資料の破損・紛失リスクについて適切な対処が必要となります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆考古資料室では、展示のテーマを工夫し、また他の展示イベントでのPRを行うなど、大規模なアウトリーチ展示の実施中も見学者数の維持を図ります。
◇アウトリーチ展示では、レプリカの使用や、専門の輸送業者の確保について企画段階から検討するなど、資料の破損・紛失を防止するための対応策を実施していきます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	-	-	440	300	-	考古資料室年間見学者数
		実績	521	437	255			
アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	件(人)	目標	-	-	3(8,000)	3(4,500)	-	収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の件数及び見学者数
		実績	3(4,105)	4(5,981)	3(6,907)			

成果
◆考古資料室とアウトリーチ展示を合わせた見学者数は11%(744人)増加しました。
◆考古資料室見学者数は、夏休み期間を中心に主要展示資料を200点以上を出展した大規模アウトリーチ展示を実施した影響もあり42%(182人)減少しました。
説明
◆アウトリーチ展示は、レプリカを活用した「なすな原遺跡の縄文時代」展(成瀬会館と市庁舎1階イベントスタジオで開催)や「縄文土器をよむ-文字のない時代からのメッセージ」展(町田市民文学館で開催)の3件を実施して15%(926人)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	3,115	2,540	2,449	△ 91	地方税	0	0	0	0
物件費	2,189	2,113	2,160	47	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,613	1,528	1,578	50	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	173	24	182	158	分担金及負担金	0	0	0	0
補助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	2,695	2,695	3,157	462	行政収入 小計(a)	0	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 8,580	△ 7,619	△ 8,157	△ 538
賞与・退職手当引当金繰入額	408	247	209	△ 38	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	8,580	7,619	8,157	538	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 8,580	△ 7,619	△ 8,157	△ 538
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 8,580	△ 7,619	△ 8,157	△ 538

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費(展示会準備、施設見学対応、収蔵品・蔵書整理) 2,449千円	決算額の主な内訳	施設管理業務委託 574千円 除草及び低木剪定業務委託 592千円 機械警備委託 233千円 など
主な増減理由	2018年度に比べ、考古資料室での職員による展示対応(展示替え、見学対応)が少なかったため、2019年度は人件費が91千円減少。	主な増減理由	消費税率引き上げに伴って物件費が増加。空調機の定期点検が不要な年度であったため、空調機器点検委託料45千円が減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	考古資料室屋外排水修繕 176千円 考古資料室水栓修繕 6千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	老朽化した排水設備を修繕したため、維持補修費が158千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
見学者1人あたりコスト	人	2019	7,162	1,139	△ 48	アウトリーチ展示の見学者数が増加したため、見学者1人あたりのコストは2018年度より4%(48円)減少しました。
		2018	6,418	1,187	△ 668	
		2017	4,626	1,855		
		2019				
		2018				
		2017				
		2019				
		2018				
		2017				

④貸借対照表

(単位:千円)

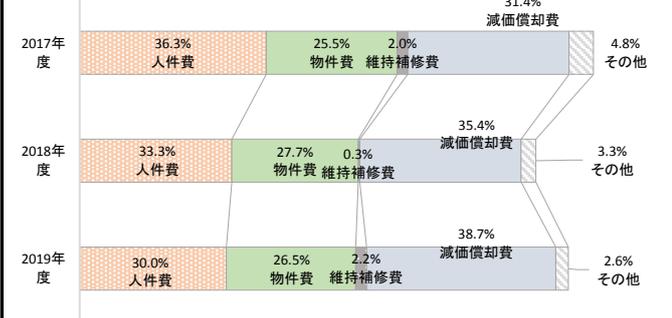
勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	138	139	1
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	111,404	108,709	△ 2,695	賞与引当金	138	139	1
	土地	54,688	54,688	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	131,142	131,142	0	固定負債	1,940	1,855	△ 85
	建物減価償却累計額	△ 74,426	△ 77,121	△ 2,695	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	1,940	1,855	△ 85
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	2,078	1,994	△ 84
	その他の固定資産	2,309	1,848	△ 461	純資産	111,635	108,563	△ 3,072
資産の部合計	113,713	110,557	△ 3,156	純資産の部合計	111,635	108,563	△ 3,072	
				負債及び純資産の部合計	113,713	110,557	△ 3,156	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	決算額の主な内訳	考古資料室(取得額) 131,142千円	決算額の主な内訳	土製耳飾リレプリカ 1,848千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、2,695千円減少。	主な増減理由	減価償却により、461千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



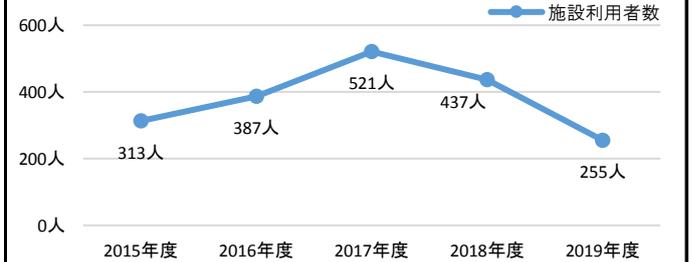
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2019年度		2018年度	
						合計	割合	合計	割合
考古資料室管理事務	0.2		0.1			0.3	0.3	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
2019年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0
2018年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0

6.個別分析

▽考古資料室見学者数の推移



▽アウトリーチ展示見学者数の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆アウトリーチ展示は3件実施し、特に町田市民文学館での展示では、厳選した考古資料200点以上を出展したこともあり好評で、見学者数は15%(926人)増加しました。一方で考古資料室見学者数は、主要な展示資料を長期間アウトリーチ展示に出展した影響もあり42%(182人)減少しました。
- ◆考古資料室及びアウトリーチ展示の見学者数を合わせると11%(744人)の増加となったため、見学者1人当たりのコストは4%(48円)減少しました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆アウトリーチ展示期間の長期化に伴い、考古資料室の見学者数は2018年度から減少傾向にあります。規模の大きいアウトリーチ展示を実施する際には主要な展示品を持ち出すことになるため、双方に足を運びたいような魅力的な展示方法や広報活動の工夫が必要です。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆2020年度に町田市立博物館から移管される考古資料を活用して考古資料室の展示内容を刷新するなど新たな魅力の発信に努めます。
- ◇見学者が施設を安全に利用でき、収蔵資料を適切に保管できるよう設備を定期的に点検し、計画的な修繕、管理を行います。

2019年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
				事業類型	e:事業型(施設運営)

1.組織概要

組織の 自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して、市民の利用に供し、自由民権運動と町田の歴史についての市民の理解を深めます。

所管事務 ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の展示に関すること
◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の閲覧に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の調査及び研究に関すること
◆自由民権運動及び町田の歴史に関する図書の刊行に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する講座及びイベントの開催に関すること

基本情報	根拠法令等 町田市立自由民権資料館条例、町田市立自由民権資料館条例施行規則						
		2017年度	2018年度	2019年度	施設名称	町田市立自由民権資料館	
	開館日数	302	306	213	建設年月日	1986年3月31日	
	特別展・企画展開催回数	3	3	2		2017年度	2018年度
講座実施回数	138	112	98	有形固定資産減価償却率	46.9%	48.8%	38.4%

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆自由民権資料館の利用者数は、2018年度に過去最高の7,852人となりました。引き続き、行政コストに見合う十分な成果が得られるよう、自由民権資料館の魅力の向上に努めるとともに、SNSを導入した情報発信に取り組みなど、より一層の利用者数の増加を図ることが必要です。
◆ランニングコスト削減のため、全照明のLED化や省エネ機器への更改等、実現に向けて工事担当課と引き続き協議が必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆改修工事中は休館となるため、利用者数の減少が見込まれますが、講座やフィールドワークなどのアウトリーチ事業を充実します。また、展示の基礎となる史料整理や史料保管環境の整備を積極的に行うことで、今後の展示事業の充実に繋がります。
◆2019年度の改修工事において、ランニングコスト削減のため、全照明のLED化や省エネ設備への更改等を行います。
◇町田デジタルミュージアム構築の準備として、資料のデジタル化を進めるとともに、構築後の効果的な活用方法について検討します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 利用者数	人	目標	6,900	7,000	5,900	7,000	7,200	年間利用者数(出張講座等の施設外利用者含む)
		実績	6,648	7,852	8,084			
資料整理点数	点	目標	-	15,000	20,000	15,000		年間資料整理点数
		実績	14,489	13,306	9,108			

成果 ◆企画展「町田の八王子千人同心」及び特別展「町田の近代と青年」を開催し、観覧者数は4,606人でした。
◆改修工事による資料収蔵庫への入室制限期間が予定よりも長くなったため、資料整理作業を計画どおり進めることができませんでした。しかし、工事の期間中には市庁舎イベントスタジオ及び図書館でアウトリーチ展示を積極的に実施し、町田の歴史に触れる機会を提供することができました。
説明 ◆インターネットを通じて時間や場所を選ばずに文化財に触れられる機会を創出するため、町田デジタルミュージアムの構築に着手しました。古文書など約52点のデジタル画像作成を終了し、ホームページ上で公開しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	39,832	39,037	39,884	847	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	1,371	1,341	2,004	663	保険料	0	0	0	0
物件費	9,560	9,901	9,383	△ 518	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	4,703	5,082	4,923	△ 159	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,258	680	345	△ 335	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	材料及手数料	0	0	0	0
補助費等	952	955	1,003	48	その他	1,005	658	525	△ 133
減価償却費	7,391	7,391	7,391	0	行政収入 小計(a)	1,005	658	525	△ 133
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 69,321	△ 60,913	△ 61,622	△ 709
賞与・退職手当引当金繰入額	11,333	3,607	4,141	534	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	70,326	61,571	62,147	576	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 69,321	△ 60,913	△ 61,622	△ 709
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 69,321	△ 60,913	△ 61,622	△ 709

②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員給料等 28,200千円 非常勤職員報酬等 11,684千円	決算額の主な内訳	自由民権資料館電気料金(年間) 2,281千円 自由民権資料館総合管理業務委託料 2,086千円 民権の森史跡管理業務委託料 2,026千円 エレベーター保守点検業務委託 262千円 など
主な増減理由	改修工事への対応等により時間外が663千円増加し、人件費が847千円増加。	主な増減理由	伐採の必要な樹木が少なかったことから樹木剪定業務委託料が349千円減少。展示予定だった史料を借用できなかったため資料運搬料が205千円減少。
勘定科目	その他(行政収入)	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	講習会等参加費 238千円 図書等販売収入 222千円 複写機等使用料 38千円 公衆電話使用料 1千円 など	決算額の主な内訳	講演会等講師謝礼 442千円 原稿執筆料 280千円 史料調査員謝礼 252千円 保険料 11千円 など
主な増減理由	講演会の実施回数が減ったことなどの理由から講習会等参加費が36千円減少。休館により、図書販売収入が37千円減少。	主な増減理由	原稿量の増加から原稿執筆料が108千円増加。休館により史料調査量が減少したため資料調査員謝礼が56千円減少。新型コロナ影響でイベントを中止したため保険料が5千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2019	8,084	7,688	△ 153	2018年度と比較して、利用者数が伸びたことにより利用者1人あたりのコストが減少しました。
		2018	7,852	7,841	△ 2,738	
		2017	6,648	10,579		
		2019				
		2018				
		2017				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,716	1,837	121
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0
固定資産	有形固定資産	526,116	639,657	113,541		賞与引当金	1,716	1,837
	土地	334,577	334,577	0		その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	369,527	490,459	120,932	固定負債	24,163	108,429	84,266
	建物減価償却累計額	△ 177,988	△ 185,379	△ 7,391		地方債	0	84,000
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	24,163	24,429
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0
	土地	0	0	0		負債の部合計	25,879	110,266
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	500,237	529,391	29,154
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	0	0	0					
資産の部合計	526,116	639,657	113,541	負債及び純資産の部合計	526,116	639,657	113,541	

⑤貸借対照表の特征的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	決算額の主な内訳	自由民権資料館 490,459千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	改修工事により、120,932千円増加。減価償却により、7,391千円減少。	主な増減理由	

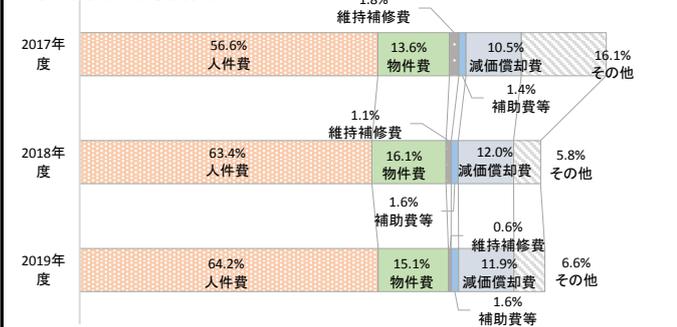
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	525	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	84,000
行政サービス活動支出	54,369	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 53,844	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	84,000
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	30,156
				一般財源充当調整額	△ 30,156

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



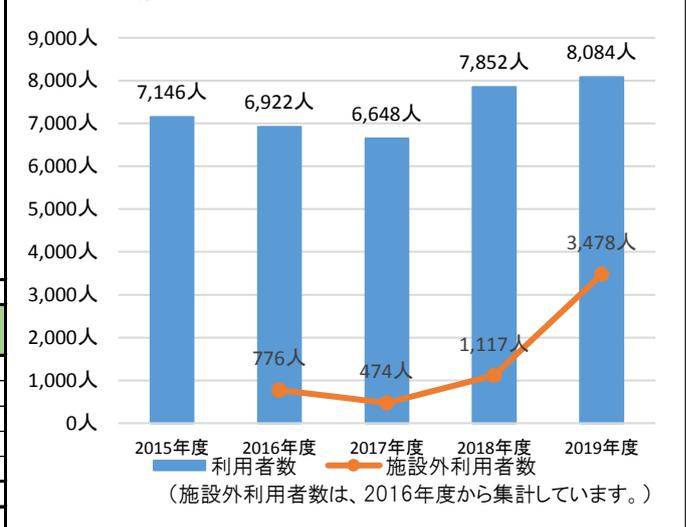
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2019 合計	2018 合計
資料館管理事務	1.6			0.2	0.4	2.2	2.2
資料保管事務	0.2			0.5	0.3	1.0	1.0
展示事務	0.3			0.6	0.9	0.9	0.9
図書刊行	0.2			0.3		0.5	0.5
普及事務	0.7			1.5	0.1	2.3	2.3
2019年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	3.1	0.8	6.9	6.9
2018年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	3.1	0.8	6.9	6.9

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆改修工事のため12月から3月末まで休館したことにより、開館日数が減少しましたが、開館期間中に特別展や講演会を実施し、休館中には市庁舎イベントスタジアムおよび図書館でのアウトリーチ展示を実施したことにより、利用者が目標値を37%(2,184人)上回りました。
- ◇Twitterやアウトリーチ展示を通じて、市民や市外の方にも町田の歴史に触れる機会を提供することができました。
- ◆2019年12月から「中期修繕計画」に基づく改修工事を実施しました。屋根の葺き替え、空調設備の更改およびすべての照明をLED化することで、建物の維持を図るとともに、資料の保存・展示環境を整えました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆自由民権資料館の利用者数は、年々増加傾向にありますが、行政コストに見合う成果が十分ではありません。社会環境の変化をふまえ、更なる魅力の向上につながる事業や効率的・効果的な管理運営手法について検討する必要があります。
- ◆空調設備や照明機器の更改によるコスト面での影響分析・検証を行い、引き続き建物維持管理に努める必要があります。
- ◇町田デジタルミュージアムの全面公開の際には、掲載する歴史資料について誰にでも分かりやすい解説を併せて掲載する必要があります。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇自由民権資料館の役割や事業を整理し、新たな利用者の獲得や魅力の向上につながる事業、効率的・効果的な管理運営手法について検討します。
- ◆新型コロナウイルス感染症の影響により入館やイベント開催が制限されるため、新しい生活様式に合わせた開館方法やイベントを検討します。
- ◆展示や講座の基礎となる資料整理や資料保管環境の整備を積極的に行うことで、今後の展示や講座などの事業の充実に繋がります。
- ◇町田デジタルミュージアム構築完了にむけ、デジタルならではの見せ方や誰にでも分かりやすい解説を取り入れ、効果的な活用方法を検討します。

2019年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a:施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができるよう支援します。
所管する事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る活動の支援、各種団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること ◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に供すること

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆生涯学習センターの認知度向上、施設利用者数の増加のためには、現状実施しているもののほか、新たな宣伝、周知方法に取り組む必要があります。
 ◆生涯学習センター以外の地域での講座実施を継続して進めています。『町田市生涯学習推進計画2019-2023』を踏まえ、更に地域との連携事業を拡大していく必要があります。
 ◇社会情勢の変化や『町田市公共施設再編計画』等を踏まえ、生涯学習センターの役割や事業内容の見直しに向け検討していく必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆幅広い世代を対象とした認知度の向上、施設利用者数の増加を目指して、スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進を図るほか、SNSによる情報発信の運用に取り組みます。
 ◆地域課題の解決に向け、市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」のほか既存の連携に加えて新たな地区協議会との連携事業実施に取り組みます。
 ◆『町田市公共施設再編計画』に基づく取り組みの一環として、2019年度に陶芸講座の方向性を検討します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	-	-	-	増	増	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターを利用した割合
		実績	78	76	77			
地域で実施した講座の延べ講座数	講座	目標	-	12	-	13	14	生涯学習センター以外の場所で地域団体との連携や地域課題の解決を目的に実施した主催講座等の延べ講座数
		実績	12	13	13	(2021年度)		
市民提案型事業「まちチャレ」実施数	事業	目標	-	-	5(2)	6(3)	8(4)	町田市教育プラン2019-2023、町田市生涯学習推進計画2019-2023における重点事業。()は地域での実施数。
		実績	5(0)	5(1)	5(2)		(2023年度)	

成果の説明
 ◆生涯学習センターの認知度向上、施設利用者数増加のため、QRコードを掲載したPRカードの配布などの周知を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、30日間施設を休館したことにより、利用者数は2018年度比8,862人減の156,168人に留まりました。施設利用率は2018年度より1%増加し高水準を維持しています。
 ◆鶴川地区で地区協議会と連携し6講座を実施したほか、市民提案型事業「まちチャレ」5講座中2講座及び市民大学2講座など、合計13講座を地域で実施し、講座の地域展開を進めました。
 ◆講座プログラムの一部見直しを行い、陶芸事業を廃止するとともに、陶芸スタジオの活用に向けた検討を始めました。
 ◆生涯学習センターの役割及び事業の見直しにあたり、生涯学習審議会に「町田市生涯学習センターに求められる役割」について諮問し答申を受けました。併せて生涯学習センター運営協議会において「市民ニーズに沿った生涯学習センターの事業の推進」について検討しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	155,244	157,216	159,210	1,994	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	8,812	8,655	10,091	1,436	保険料	0	0	0	0
	物件費	39,652	41,437	39,808	△ 1,629	国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	17,970	17,651	16,303	△ 1,348	都支支出金	5,515	4,883	4,864	△ 19
	維持補修費	3,501	19,852	4,628	△ 15,224	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11,055	12,422	11,420	△ 1,002
	補助費等	65,200	62,519	63,480	961	その他	3,934	3,428	5,679	2,251
	減価償却費	17,055	18,507	18,507	0	行政収入 小計(a)	20,504	20,733	21,963	1,230
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 270,610	△ 296,691	△ 278,265	18,426
	賞与・退職手当引当金繰入額	10,462	17,893	14,595	△ 3,298	金融収支差額 (d)	△ 7,517	△ 6,234	△ 4,948	1,286
行政費用 小計 (b)	291,114	317,424	300,228	△ 17,196	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 278,127	△ 302,925	△ 283,213	19,712	
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0	
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 278,127	△ 302,925	△ 283,213	19,712	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 17,294千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 11,572千円 町田市立学校開放教室管理業務委託 1,561千円 陶芸スタジオ光熱水費 670千円 舞台機構保守点検業務委託 500千円 など	決算額の主な内訳	町田センタービル設備修繕負担金 3,328千円 7階ホール給気ファン用インバータ交換修繕 506千円 8階学習室5空調機膨張弁修繕 422千円 屋上冷却塔KCT1・2水道メーター交換 140千円 6階電光掲示板前通路誘導灯取替 105千円 など
主な増減理由	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、30日間施設を閉館したため、生涯学習センター光熱水費が243千円、生涯学習センター施設貸出・管理業務委託費管理委託料が562千円減少。 陶芸講座廃止により、陶芸スタジオ光熱水費が49千円減少。	主な増減理由	共用部分の防災盤交換修繕を実施したため町田センタービル設備修繕費負担金が1,768千円増加。 占有区画において冷温水器、空調設備等の大きな工事・修繕を行わなかったため、維持補修費が15,224千円減少。
勘定科目	補助費等	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	町田センタービル管理費負担金 46,339千円 障がい者青年学級担当者謝礼 5,258千円 市民大学講座講師謝礼 2,795千円 さがまちコンソーシアム運営支援負担金 2,500千円 障がい者学習実践研究指導謝礼 1,844千円 など	決算額の主な内訳	公民館施設使用料 10,956千円 附属設備使用料 464千円
主な増減理由	協定見直しによりさがまちコンソーシアム運営支援負担金が500千円減少。文部科学省受託事業の障がい者学習実践研究事業を新設したため、指導謝礼が1,844千円増加。	主な増減理由	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、30日間施設を閉館したため、公民館施設使用料が986千円、附属設備使用料が17千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	160,171	161,579	1,408	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	152,365	153,498	1,133
固定資産	有形固定資産	2,243,022	2,224,914	△ 18,108		賞与引当金	7,806	8,081	275
	土地	1,706,823	1,706,823	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	810,237	810,237	0	固定負債	576,174	420,221	△ 155,953	
	建物減価償却累計額	△ 274,038	△ 292,146	△ 18,108		地方債	466,241	312,743	△ 153,498
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	109,933	107,478	△ 2,455
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	有形固定資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0		負債の部合計	736,345	581,800	△ 154,545
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	1,512,118	1,648,156	136,038	
工作物減価償却累計額	0	0	0						
無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	5,441	5,042	△ 399	純資産の部合計	1,512,118	1,648,156	136,038		
資産の部合計	2,248,463	2,229,956	△ 18,507	負債及び純資産の部合計	2,248,463	2,229,956	△ 18,507		

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有 持分100万分の254,148)	決算額の主な内訳	生涯学習センター 778,241千円(専有部分の建物床面積合計 2,630.86㎡) 社会資本整備等投資活動支出 生涯学習センター陶芸スタジオ 31,996千円	決算額の主な内訳	重要物品(プロジェクター等)2,057千円 出資金((株)町田センタービル株券) 2,985千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、生涯学習センターが18,108千円減少。	主な増減理由	減価償却により、重要物品が399千円減少。

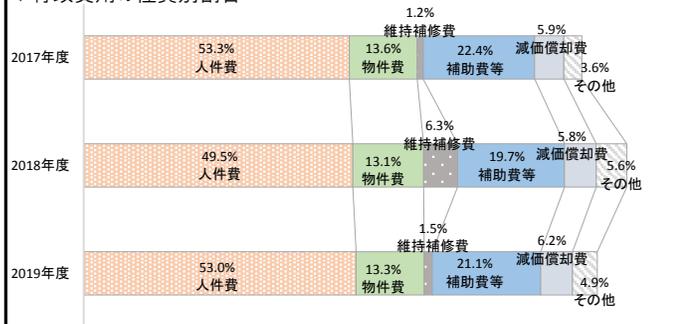
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	21,963	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	288,848	社会資本整備等投資活動支出	8	財務活動支出	152,365
行政サービス活動収支差額(a)	△ 266,885	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 8	財務活動収支差額(c)	△ 152,365
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 419,258
				一般財源充当調整額	419,258

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2018	
		フルタイム	(短時間)			合計	合計
生涯学習センター管理事務	3.9	0.5	0.8			5.2	5.4
生涯学習支援事業	3.6	0.2	0.1			3.9	4.2
生涯学習講座事業	5.7	0.2		8.0		13.9	14.0
さがまちコンソーシアム事務	0.1					0.1	0.4
施設管理	0.7	0.1	0.1			0.9	0.0
2019年度 歳出目 合計	14.0	1.0	1.0	8.0	0.0	24.0	24.0
2018年度 歳出目 合計	15.0	1.0	0.0	8.0	0.0	24.0	

7.総括

①成果および財務の分析

- ◆施設利用率は高い水準を維持しており、市内の集會・学習施設中最も高い利用率となっています。
- ◆QRコードを掲載したPRカードの配布やtwitterによる情報発信の拡充など、施設認知度向上のため、PR活動を強化しました。
- ◆市民提案型事業「まちチャレ」5講座のうち、2講座を新たに地域で実施するなど、地域展開に努めました。
- ◆生涯学習審議会に「生涯学習センターに求められる役割」について諮問し、「誰もが学べる環境づくり」、「課題解決支援」、「学びのすそ野の拡大」、「ネットワークづくりの促進」が重要とする答申を受けました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆市内に生涯学習センター・公民館が1館しかないため、施設中心の事業展開は利用者が偏る傾向があります。
- ◆施設の認知度向上についても継続して取り組む必要があります。
- ◆生涯学習審議会答申を踏まえ生涯学習センターの役割の明確化と経営資源の有効活用のため、効率的・効果的な管理運営を行う必要があります。
- ◆施設の老朽化に対応するため計画的に修繕を実施していく必要があります。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆生涯学習センターの認知度向上及び市民が場所や時間の制約なく多様な学習資源に触れることができるよう、学習情報の電子化を進めます。
- ◆身近な場所でのきっかけづくりや地域課題の解決のため、主催事業の地域展開(アウトリーチ)を進めます。
- ◆生涯学習センターの役割、事業内容の見直しを進め、効率的・効果的な管理運営手法への移行を目指します。
- ◆長期修繕計画に基づき計画的な修繕を実施していきます。

2019年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

所管する事務 ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関すること
 ◆図書館資料の収集、整理、閲覧、貸出しに関すること及び市外図書館との図書資料の相互貸借に関すること
 ◆読書普及を目的とした各種行事に関すること
 ◆地域文庫等関係団体の育成援助に関すること及び図書館活動に係るボランティアの育成に関すること
 ◆移動図書館の運営に関すること及び図書館の維持管理に関すること ◆町田市立図書館協議会に関すること

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえ、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。
 ◇自ら進んで本を読む子を育てるために、子ども読書活動の推進を一層進めていく必要があります。
 ◇読書離れが進む中高生をはじめ、図書館をあまり利用していない人に対し、世代別の読書普及・図書館利用促進の事業を行う必要があります。
 ◆2019年度の図書館システムの更新にあたり、円滑なシステム更改とホームページの改善を行う必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。
 ◆自ら進んで本を読む子を育てるために、関係部署や関係団体と連携し、第四次子ども読書活動推進計画を策定します。
 ◇読書離れが進む中高生をはじめ、図書館をあまり利用していない人に対して、世代別の読書普及・図書館利用促進の事業を行います。
 ◆2019年度の図書館システムの更新に合わせて、ホームページの改善を行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	3,855,000	4,007,000	4,046,000	4,086,000	4,086,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)
		実績	3,801,891	3,720,658	3,305,383		(2020年度)	
蔵書回転率	回	目標	3.15	3.26	3.28	3.30	3.30	貸出点数を蔵書数で除したものの(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	3.12	3.07	2.73		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	2,090,000	2,100,000	2,100,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	2,041,910	2,089,332	1,892,224		(2020年度)	

成果の説明 ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のための実行計画である「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」を決定しました。 ◆大和市立図書館との相互利用を5月15日から開始しました。
 ◆4回の策定委員会と2回の作業部会を開催し、10月に市民意見募集を行い2020年2月「第四次町田市子ども読書活動推進計画」を策定しました。
 ◆小学校4年生から中高生を対象に「POPコンテストまちだ2019」を実施し、2018年度の4倍以上となる553作品の応募がありました。また、幼児から小学低学年を対象とした「読書手帳」の配布や小学生向けの図書館員体験講座を実施し、世代別の読書普及や図書館の利用を促進しました。
 ◆学校図書指導員及び教諭対象の図書館研修の実施、職場体験の中学生58人・高校生18人を受け入れ、小学校・中学校などによる図書館見学を行ったほか、学校などを訪問してブックトークやおはなし会を行いました。
 ◆図書館システムの更改に伴い、読書履歴記録や本の表紙画像の表示機能の追加など、図書館ホームページの改善を行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	805,273	811,513	805,869	△ 5,644	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	13,918	14,682	16,434	1,752	保険料	0	0	0	0
物件費	294,278	284,414	372,975	88,561	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	70,367	64,579	162,547	97,968	都支支出金	622	4,798	0	△ 4,798
維持補修費	18,571	55,873	17,206	△ 38,667	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	1	11	11	0
補助費等	53,236	53,141	53,600	459	その他	5,205	3,328	2,924	△ 404
減価償却費	48,503	49,496	50,205	709	行政収入 小計(a)	5,828	8,137	2,935	△ 5,202
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 1,259,846	△ 1,312,408	△ 1,343,421	△ 31,013
賞与・退職手当引当金繰入額	45,813	66,108	46,501	△ 19,607	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	1,265,674	1,320,545	1,346,356	25,811	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 1,259,846	△ 1,312,408	△ 1,343,421	△ 31,013
特別費用 (g)	38,794	50,027	46,692	△ 3,335	特別収入 小計 (f)	207	168	289	121
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 38,587	△ 49,859	△ 46,403	3,456	当期収支差額 (e)+(h)	△ 1,298,433	△ 1,362,267	△ 1,389,824	△ 27,557

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 446,611千円 再任用職員 44,555千円 嘱託員 278,933千円 臨時職員 35,297千円 図書館協議会委員報酬 473千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 109,506千円 図書館システム導入委託料 105,662千円 図書館情報システムサービス使用料 44,350千円 図書館書籍配送業務委託料 8,240千円 鶴川駅前図書館総合管理業務委託料 21,133千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、5,644千円の減少。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の一時的経費105,662千円の増加。中央図書館貸出手続確認装置管理業務委託料3,847千円の減少。装備支援システム使用料2,516千円の減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	都支支出金
決算額の主な内訳	中央図書館4階照明設備改修工事 9,058千円 木曾山崎図書館排煙窓修繕 1,297千円 中央図書館空調制御機器部品交換修繕 1,100千円 さるびあ図書館空調機器更新修繕 1,107千円 エルムビル消防設備改修工事に伴う負担金 950千円など	決算額の主な内訳	都支支出金 0千円
主な増減理由	中央図書館4階照明設備改修工事や中央図書館空調制御機器部品交換修繕などの増加。エルムビル施設修繕負担金42,223千円の減少。	主な増減理由	2018年度事業に伴って収入した地域福祉推進包括補助事業補助金、ユニバーサルデザインまちづくり緊急推進事業補助金、子ども家庭支援包括補助事業補助金が皆減。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	30,494	30,886	392	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	
固定資産	有形固定資産	1,055,031	1,015,892	△ 39,139		賞与引当金	30,494	30,886	392
	土地	343,044	343,044	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	1,609,449	1,609,449	0	固定負債	429,479	410,811	△ 18,668	
	建物減価償却累計額	△ 897,462	△ 936,601	△ 39,139		地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	429,479	410,811	△ 18,668
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	459,973	441,697	△ 18,276
	その他の固定資産	2,299,452	2,289,150	△ 10,302	純資産	2,894,510	2,863,345	△ 31,165	
資産の部合計	3,354,483	3,305,042	△ 49,441	純資産の部合計	2,894,510	2,863,345	△ 31,165		
				負債及び純資産の部合計	3,354,483	3,305,042	△ 49,441		

④貸借対照表の特徴的事項

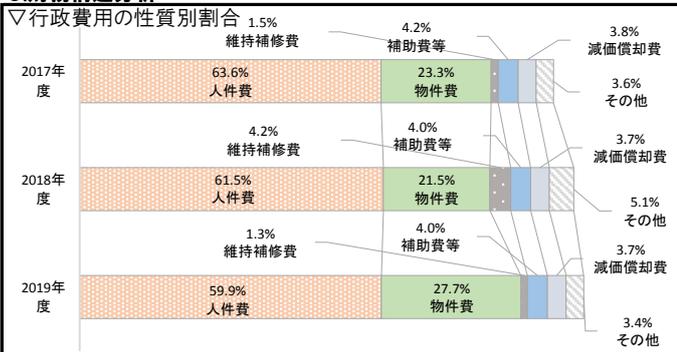
勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,531千円	決算額の主な内訳	中央図書館 1,388,856千円(専有部分建物床面積合計5,262.05㎡) さるびあ図書館 109,131千円 木曾山崎図書館 111,462千円	決算額の主な内訳	図書資産 2,247,056千円 出資金(エルム・スリー管理株) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 35,494千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、39,139千円減少。	主な増減理由	図書購入・寄贈の増加と除籍による減少に特別収入及び特別費用を加え、忠生図書館書架等備品の減価償却により、全体で10,302千円の減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

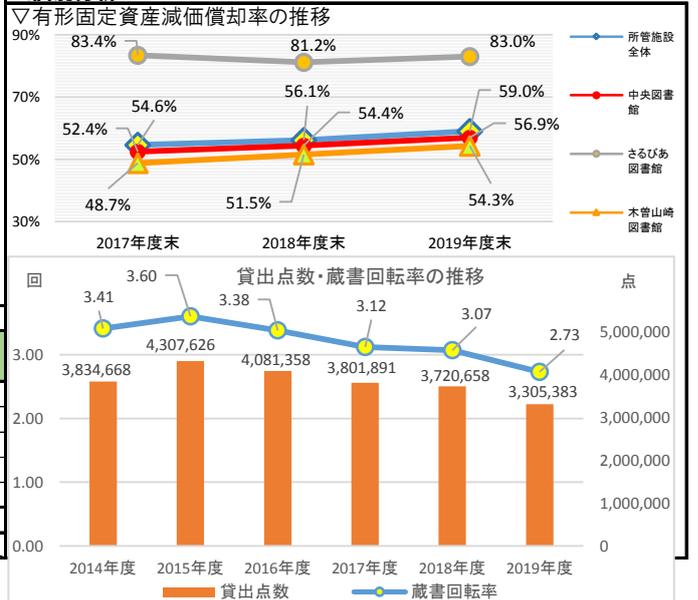
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	2,259	社会資本整備等投資活動収入	20	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,314,427	社会資本整備等投資活動支出	35,245	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,312,168	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 35,225	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,347,393
				一般財源充当調整額	1,347,393

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	2019年度					2018年度	
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	合計	合計
図書館管理事務	6.2	0.3		2.1	0.1	8.7	8.1
各館庶務事務	11.7	1.3	0.2	0.7	0.5	14.4	13.8
企画運営事務	9.4	0.3		2.9		12.6	11.4
資料貸出・閲覧業務	23.4	3.9	3.8	81.2	16.0	128.3	130.8
利用援助・普及事業	3.3	0.2		12.0		15.5	16.0
2019年度 歳出目 合計	54.0	6.0	4.0	98.9	16.6	179.5	180.1
2018年度 歳出目 合計	58.0	4.0	4.0	97.3	16.8	180.1	

7.総括

①成果および財務の分析

- ◆他部署と連携してイベントや各種講座等を行い、読書普及・図書館利用の促進に努めましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3月に臨時休館した影響などにより、図書館全貸出点数は2018年度より415,275点減少し、蔵書回転率も0.34ポイント下がり、来館者も197,108人減少しました。
- ◆「えいごのまちだ推進事業」に合わせ、外国語の絵本・児童書を約800冊購入し、蔵書数は約4,800冊になりました。また、中央、鶴川駅前、忠生の3館に「英語多読コーナー」を設置しました。
- ◆所管する各図書館の施設の緊急修繕等を行い、利用者が安心して利用できるように施設の維持管理及び安全管理に努めました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆子ども読書活動推進会議の運営の見直しや、外国語の絵本・児童書の効果的な選書方法及び英語多読コーナーの運用方法の検証が必要です。
- ◇読書離れが進む中高生をはじめ、図書館をあまり利用していない人に対し、世代別の読書普及・図書館利用促進の事業を行う必要があります。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
- ◆「英語多読コーナー」の全館設置を目指し、外国語の絵本・児童書の計画的な購入を行うとともに、英語多読を定着させるために市民による多読サークルの結成を支援して、読書普及・図書館利用促進の事業を行います。
- ◆自ら進んで本を読む子を育てるために、関係部署や関係団体と連携し、第四次子ども読書活動推進計画に取り組んでいきます。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。				
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則				
	2017年度	2018年度	2019年度	施設の名称	町田市立中央図書館
	578,463点	579,581点	578,897点	建設年月日	1990年4月16日
	175,980件	177,196件	165,084件		
	400,776人	390,041人	343,159人	有形固定資産減価償却率	2017年度 52.4% 2018年度 54.4% 2019年度 56.9%

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを活かし、町田市の課題解決に役立つ事業を、他機関・他部署と連携して行っていく必要があります。
 ◇居心地のよい空間のある図書館を求める声に応えていく必要があります。
 ◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえ、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。
 ◇建設後29年が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。利用者に安心して施設を利用してもらうためには、施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、長期的な施設の維持管理計画に基づいて、施設や設備の改修を行うことが必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆地域で活動するボランティアに向けた講座やボランティアの交流会を企画するなど、地域で活動する市民に役立つ事業を行います。
 ◆市立図書館の中心館として、町田市の課題に対応するための、特集コーナーの設置やイベント・事業などを地域館と一緒にを行います。
 ◆現在ある集会室を利用して、夏休みに中高生に、グループ学習の場を提供します。
 ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。
 ◆老朽化の進んでいる中央図書館を利用者に安心して利用してもらうために、4F照明設備改修工事など、施設や設備の修繕を行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,150,000	1,116,000	1,127,000	1,138,000	1,138,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)
		実績	1,104,527	1,069,808	951,376		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	610,000	612,000	612,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	613,940	608,275	553,290		(2020年度)	

成果 説明 ◆小学生の保護者向けの絵本の読み聞かせ講座(全6回参加118人)、利用者ボランティアの方の意見交換を含めて行った障がい者サービス普及のための講座(参加27人)、利用者に図書館をもっと活用してもらうための講座(参加54人)、ことぶき大学まちだ探・探ゼミナールの講師として図書館活用の講座(参加34人)を開催したほか、市の関連部署と連携した本の特集コーナーを15回開催して、図書館利用の促進に努めました。
 ◆6階の中集会室を夏休み期間中に中高生のグループ学習スペースとして開放することを試行しました。また、5階のヤングアダルトコーナーを「TEEN LIBRARY」としてリニューアルし、中高生向けに勉強目的でも利用できるような優先席を設置しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額	勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	354,024	362,140	368,257	6,117	地方税	0	0	0	0
物件費	94,069	92,121	115,044	22,923	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	9,282	10,649	38,497	27,848	都支出金	0	4,798	0	△ 4,798
維持補修費	6,639	50,736	13,930	△ 36,806	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	53,014	52,917	53,378	461	その他	4,597	1,776	1,535	△ 241
減価償却費	32,007	33,186	33,895	709	行政収入 小計(a)	4,597	6,574	1,535	△ 5,039
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 551,275	△ 624,434	△ 617,539	6,895
賞与・退職手当引当金繰入額	16,119	39,908	34,570	△ 5,338	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	555,872	631,008	619,074	△ 11,934	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 551,275	△ 624,434	△ 617,539	6,895
特別費用(g)	24,873	15,514	18,121	2,607	特別収入 小計(f)	1	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 24,873	△ 15,514	△ 18,121	△ 2,607	当期収支差額(e)+(h)	△ 576,147	△ 639,948	△ 635,660	4,288

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 231,791千円 再任用職員 18,886千円 嘱託員 97,247千円 臨時職員 20,087千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 37,176千円 図書館システム導入委託料 33,706千円 図書館情報システムサービス使用料 14,148千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、6,117千円増加。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、22,923千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	都支出金
決算額の主な内訳	4階照明設備改修工事 9,058千円 空調制御機器部品交換修繕 1,100千円 エルムビル消防設備改修工事に伴う負担金 950千円など	決算額の主な内訳	都支出金 0千円
主な増減理由	2018年度に比べ、エルムビル施設修繕や設備更新工事など大規模な修繕がなかったため36,806千円減少。	主な増減理由	2018年度事業に伴って収入した地域福祉推進包括補助事業補助金、ユニバーサルデザインまちづくり緊急推進事業補助金、子ども家庭支援包括補助事業補助金が皆減。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	578,897	1,069	△ 20	維持補修費などが減少したことにより、単位あたりコストが20円減少しました。
		2018	579,581	1,089	128	
		2017	578,463	961		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	5,968	103,732	△ 2,000	維持補修費などが減少したことにより、単位あたりコストが2,000円減少しました。
		2018	5,968	105,732	12,590	
		2017	5,968	93,142		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	276	2,243,022	160,487	維持補修費などが減少した一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が27日(△8.9%)減少したため、単位あたりコストが160,487円(7.7%)増加しました。
		2018	303	2,082,535	191,814	
		2017	294	1,890,721		

④貸借対照表

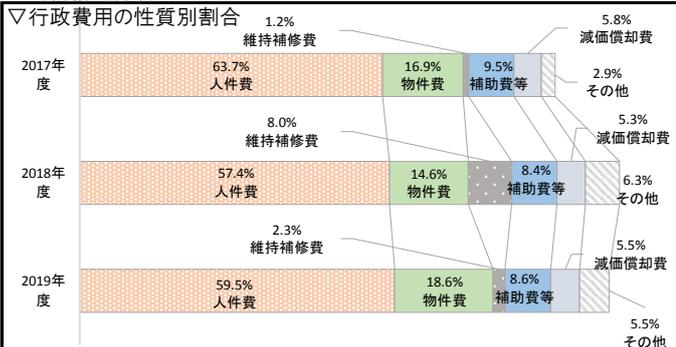
(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	15,085	16,030	945
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	897,919	864,024	△ 33,895	賞与引当金	15,085	16,030	945
	土地	262,513	262,513	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	1,388,856	1,388,856	0	固定負債	212,463	213,211	748
	建物減価償却累計額	△ 753,450	△ 787,345	△ 33,895	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	212,463	213,211	748
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	227,548	229,241	1,693
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	1,987,470	1,954,491	△ 32,979
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	1,317,099	1,319,708	2,609	純資産の部合計	1,987,470	1,954,491	△ 32,979	
資産の部合計	2,215,018	2,183,732	△ 31,286	負債及び純資産の部合計	2,215,018	2,183,732	△ 31,286	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298)	決算額の主な内訳	中央図書館 1,388,856千円(専有部分建物床面積合計5,262.05㎡)	決算額の主な内訳	図書資産 1,313,108千円 出資金(エルム・スリー管理(株)) 6,600千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、33,895千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書18,058千円、寄贈2,672千円、除籍△17,847千円、特別費用△274千円の期中移動があり、図書資産額が2,609千円増加。

5.財務構造分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2019年度	
						合計	2018年度
図書館管理事務	4.5	0.2		0.2	0.1	5.0	4.9
各館庶務事務	6.3	0.8		0.1	0.5	7.7	7.9
企画運営事務	6.1	0.2		1.3		7.6	6.4
資料貸出・閲覧業務	9.2	1.7	1.0	27.7	8.7	48.3	49.6
利用援助・普及事業	1.9	0.1		5.0		7.0	6.9
2019年度 特定事業 合計	28.0	3.0	1.0	34.3	9.3	75.6	75.7
2018年度 特定事業 合計	29.0	1.0	3.0	33.2	9.5	75.7	

6.個別分析



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆他機関や他部署と連携したイベントや子ども読書週間に合わせた「本のお楽しみ貸出」の実施など、利用普及や読書普及事業を行いました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館した影響などにより、2018年度より貸出点数は118,432点減少し、来館者数も54,985人減少しました。
- ◆マルチメディアDAISY(音声と一緒に文字や絵が表示されるデジタル図書)の上映会(2日間の開催で29人の参加)や、9月からの学校図書館支援貸出での活用開始等、障がい者サービスの利用促進に取り組み、2018年度より音訳資料や点訳資料の貸出点数は133点増加し2,374点になりました。
- ◆新たに「英語多読コーナー」を設置しました。 ◆4階照明設備改修工事や消火設備改修工事などの修繕・工事を行い、利用環境を改善しました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを活かし、町田市の課題解決に役立つ事業を、他機関・他部署と連携して行っていく必要があります。
- ◇居心地のよい空間のある図書館を求める声に応えていく必要があります。
- ◇安心して施設を利用してもらうために、設備等の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応と、長期的な維持管理計画に基づく設備改修が必要です。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
- ◆地域で活動するボランティアに向けた講座やボランティアの交流会を企画するなど、地域で活動する市民に役立つ事業を行います。
- ◆市立図書館の中心館として、町田市の課題に対応するための、特集コーナーの設置やイベント・事業などを地域館と連携して行います。
- ◆2019年度から提供を開始した中高生のグループ学習用スペースの提供期間を拡大します。
- ◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、館内照明設備やホール音響設備の改修工事など、施設や設備の修繕を行います。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。
------	--

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則						
		2017年度	2018年度	2019年度	施設の名称	町田市立さるびあ図書館		
	蔵書数	135,216点	133,684点	134,421点	建設年月日	1972年5月22日		
	予約・リクエスト数	65,627件	67,353件	63,702件		2017年度	2018年度	2019年度
	貸出者数	101,024人	96,010人	85,200人	有形固定資産減価償却率	83.4%	81.2%	83.0%

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇移動図書館の貸出冊数は、利用が伸び悩んでいます。利用状況を分析し対応策を検討する必要があります。
◆子ども読書活動を推進するため、学校図書館支援貸出の充実が求められています。
◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえ、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。
◇建築後40年以上が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に施設管理を行っていく必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇さるびあ図書館と堺図書館の移動図書館3台の巡回運行の見直しを行い、移動図書館の利用促進を図ります。
◆住宅地の中の図書館という立地も視野に入れ、利用者のニーズを把握した上で、魅力的な図書を選定します。
◆学校図書館支援貸出しの充実に向けて、調べ学習用の資料の購入や、利用について学校へのPRを行います。
◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。
◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	385,000	385,000	389,000	392,000	392,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(移動図書館2台の貸出点数を含む)
		実績	381,032	359,704	322,493		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	226,000	228,000	228,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	211,204	226,922	183,144		(2020年度)	

成果の説明	◆移動図書館2台が42か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。 ◆小・中学校から依頼を受け、テーマに沿った資料を選書し2,632冊の配本を行い、学校図書館支援貸出しについてのアンケート調査を行いました。 ◆団体利用者懇談会をワークショップ形式で開催し、団体利用者間の交流を深めました。 ◆市民ボランティアと協働で、乳幼児向け、2・3歳児向け、就学前後の児童向け等のおはなし会を開催しました。 ◆中学2年の職場体験6人、私立中学生2人、高校生2人を受け入れ、図書館の仕事を体験してもらいました。
-------	--

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	103,857	103,616	101,241	△ 2,375	地方税	0	0	0	0
物件費	27,015	26,406	35,069	8,663	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	6,901	6,508	15,684	9,176	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,296	2,955	1,135	△ 1,820	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	1	11	11	0
補助費等	18	19	18	△ 1	その他	89	300	280	△ 20
減価償却費	2,253	2,067	2,067	0	行政収入 小計(a)	90	311	291	△ 20
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 142,664	△ 143,438	△ 143,254	184
賞与・退職手当引当金繰入額	8,315	8,686	4,015	△ 4,671	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	142,754	143,749	143,545	△ 204	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 142,664	△ 143,438	△ 143,254	184
特別費用 (g)	2,260	6,757	3,844	△ 2,913	特別収入 小計 (f)	0	0	3,363	3,363
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 2,260	△ 6,757	△ 481	6,276	当期収支差額 (e)+(h)	△ 144,924	△ 150,195	△ 143,735	6,460

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 58,060千円 再任用職員 8,556千円 嘱託員 33,706千円 臨時職員 858千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 9,906千円 図書館システム導入委託料 8,981千円 図書館情報システムサービス使用料 3,770千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、2,375千円減少。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、8,663千円の増加。

勘定科目	維持補修費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	空調機器更新修繕 1,107千円 誘導灯設備修繕 28千円	決算額の主な内訳	公衆電話ボックス本柱・支線等設置使用料(行政財産使用料) 11千円
主な増減理由	大規模な改修工事を行わなかったため、1,820千円減少。	主な増減理由	増減なし

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	134,421	1,068	△ 7	人件費や維持補修費などが減少したことにより、単位あたりコストが7円減少しました。
		2018	133,684	1,075	19	
		2017	135,216	1,056		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	1,260	113,925	△ 162	人件費や維持補修費などが減少したことにより、単位あたりコストが162円減少しました。
		2018	1,260	114,087	790	
		2017	1,260	113,297		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	275	521,982	42,819	人件費や維持補修費などが減少した一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が25日(△8.3%)減少したため、単位あたりコストが42,819円(8.9%)増加しました。
		2018	300	479,163	3,316	
		2017	300	475,847		

④貸借対照表

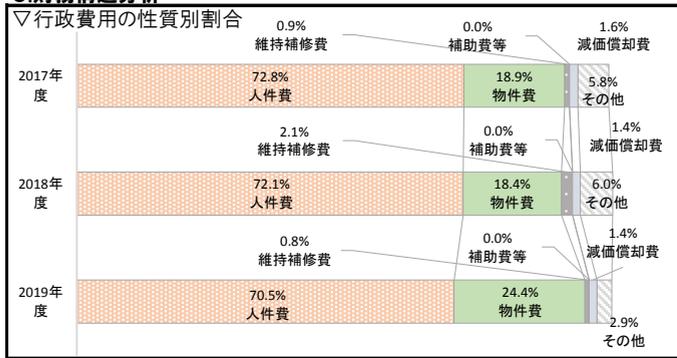
(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	4,347	4,015	△ 332
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	102,132	100,064	△ 2,068	賞与引当金	4,347	4,015	△ 332
	土地	80,530	80,530	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	109,131	109,131	0	固定負債	61,225	53,405	△ 7,820
	建物減価償却累計額	△ 87,529	△ 89,597	△ 2,068	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	61,225	53,405	△ 7,820
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	65,572	57,420	△ 8,152
	その他の固定資産	0	0	0	純資産	255,434	262,511	7,077
資産の部合計	321,006	319,931	△ 1,075	純資産の部合計	255,434	262,511	7,077	
				負債及び純資産の部合計	321,006	319,931	△ 1,075	

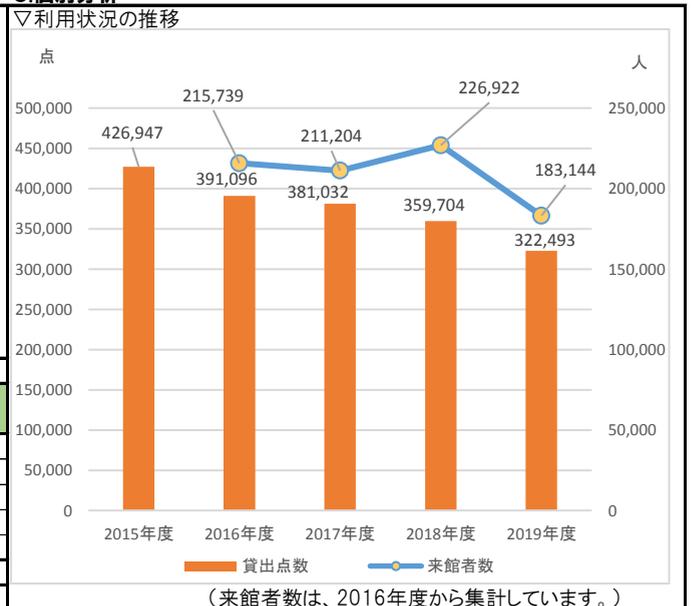
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	決算額の主な内訳	さるびあ図書館 109,131千円	決算額の主な内訳	図書資産 219,867千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、2,068千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書3,048千円、寄贈1,789千円、除籍△3,841千円、特別費用△3千円の期中移動があり、図書資産額が993千円増加。

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2019		2018	
						合計	合計	合計	合計
図書館管理事務	0.4		0.1	0.5		1.0	0.8		
各館庶務事務	1.3	0.1		0.1		1.5	1.6		
企画運営事務	0.4			0.3		0.7	0.8		
資料貸出・閲覧業務	4.7	0.9	0.9	10.0	0.5	17.0	16.8		
利用援助・普及事業	0.2			1.1		1.3	1.3		
2019年度 特定事業 合計	7.0	1.0	1.0	12.0	0.5	21.5	21.3		
2018年度 特定事業 合計	8.0	0.0	1.0	11.6	0.7	21.3			

7.総括

①成果および財務の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館した影響などにより、2018年度より貸出点数は37,211点、来館者数は43,778人減少しました。なお、この間実施する予定であったイベントも中止しています。

◆町田エコフェスタに移動図書館を展示し、利用促進のためのPRを行いました。

◆学校図書館支援事業として、小中学校合わせて61校の登録校のうち26校から依頼を受け、学校が希望する特定のテーマの資料2,632冊を貸出・配本しました。2018年度より登録校は4校、貸出冊数は1,340冊減少しました。団体貸出については全館で205団体の登録があり19,170冊の貸出を行いました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。

◇移動図書館の貸出冊数は、利用者のライフスタイルの多様化や変化により伸び悩んでいます。利用状況を分析し対応策を検討する必要があります。

◆子ども読書活動を推進するため、学校図書館支援貸出の充実が求められています。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

◇さるびあ図書館と堺図書館の移動図書館3台の巡回運行の見直しを行い、幼稚園、保育園やイベント等へ展開し利用促進を図ります。

◆学校図書館支援貸出しの充実に向けて、テーマ別学校支援貸出用セットの準備や、教員・図書指導員への研修会等の機会を通して制度の説明を行い、利用促進を図っていきます。

◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民が、ライフスタイルに依り必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。				
------	---	--	--	--	--

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則						
	2017年度	2018年度	2019年度	施設の名称	町田市立鶴川図書館		
	蔵書数	50,345点	48,215点	47,999点	建設年月日	1972年2月15日	
	予約・リクエスト件数	44,809件	43,370件	42,769件	2017年度	2018年度	2019年度
	貸出者数	63,719人	59,202人	52,069人	有形固定資産減価償却率	-	-

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆貸出点数・蔵書回転率・来館者数は減少しています。鶴川地域図書館内で連携し、地域活性化と利用者増に向けた取り組みが必要です。
 ◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆地元商店街のイベントと連携しながら、地域活性化と利用者増に向けた取り組みを行います。
 ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制確立のためのアクションプランを決定します。
 ◆鶴川地域の小学校を訪問して、図書館のイベントの周知を図ります。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	210,000	207,000	209,000	211,000	211,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	205,251	186,874	163,540		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	173,000	174,000	174,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	199,442	173,545	143,373		(2020年度)	

成果 ◆鶴川団地商店街夏祭りに併せて、「古本市」を初めて企画、開催し、311冊のリサイクル本を参加者に配布しました。
 ◆母親向けの絵本講座を開催し、31人(2018年度と比較し17人増加)の参加がありました。 ◆ラグビーワールドカップ開催運動企画として、「鶴二おのやじたちの会」とのコラボ企画「ポケモンをつくった男 田尻智」を読む会を開催し、15人の参加がありました。 ◆鶴川第三小学校・鶴川第四小学校・鶴川第二中学校を訪問し、POPコンテストのPRを行い、8作品の応募があり、うち1作品は優秀賞を受賞しました。
 説明 ◆七国山小学校を訪問し、6年生を対象とした5クラス139人を対象にブックトークを行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	40,022	37,599	33,436	△ 4,163	地方税	0	0	0	0
物件費	15,216	15,188	20,906	5,718	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,702	1,726	7,762	6,036	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	35	18	△ 17	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	163	162	161	△ 1	その他	46	83	75	△ 8
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	46	83	75	△ 8
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 57,636	△ 54,329	△ 55,589	△ 1,260
賞与・退職手当引当金繰入額	2,281	1,428	1,143	△ 285	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	57,682	54,412	55,664	1,252	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 57,636	△ 54,329	△ 55,589	△ 1,260
特別費用 (g)	1,399	4,562	1,930	△ 2,632	特別収入 小計 (f)	26	950	3,647	2,697
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 1,373	△ 3,612	1,717	5,329	当期収支差額 (e)+(h)	△ 59,009	△ 57,941	△ 53,872	4,069

②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 16,525千円 嘱託員 14,766千円 臨時職員 2,127千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 6,643千円 図書館システム導入委託料 6,023千円 図書館情報システム使用料 2,528千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、4,163千円減少。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、5,718千円増加。
勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	47,999	1,160	31	物件費が増加したことにより、単位あたりコストが31円増加しました。
		2018	48,215	1,129	△ 17	
		2017	50,345	1,146		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	260	214,092	4,815	物件費が増加したことにより、単位あたりコストが4,815円増加しました。
		2018	260	209,277	△ 12,577	
		2017	260	221,854		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	275	202,415	21,644	物件費が増加したこと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が26日(△8.6%)減少したため、単位あたりコストが21,644円(11.9%)増加しました。
		2018	301	180,771	△ 11,502	
		2017	300	192,273		

④貸借対照表

(単位:千円)

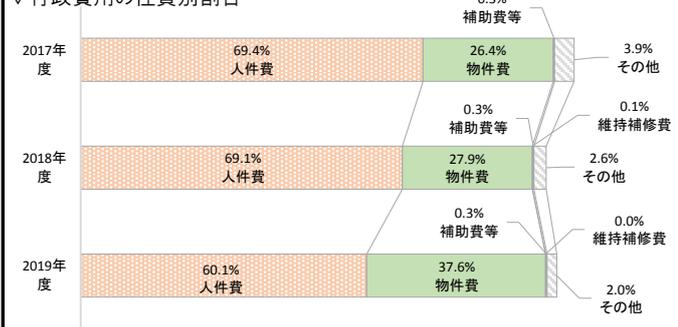
勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,428	1,143	△ 285	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	1,428	1,143	△ 285
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	20,116	15,200	△ 4,916
		建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	20,116	15,200	△ 4,916
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		土地	0	0	0	負債の部合計	21,544	16,343	△ 5,201
		工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	36,906	41,985	5,079
工作物減価償却累計額		0	0	0					
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産	58,450	58,328	△ 122	純資産の部合計	36,906	41,985	5,079	
	資産の部合計	58,450	58,328	△ 122	負債及び純資産の部合計	58,450	58,328	△ 122	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 58,328千円	決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	期初額から購入図書 1,279千円、寄贈 529千円、除籍△1,929千円、特別費用△1千円の期中移動があり、図書資産額が122千円減少。	主な増減理由		主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

業務内容	2019年度					2018年度	
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	合計	合計
図書館管理事務	0.1			0.3		0.4	0.2
各館庶務事務	0.4			0.1		0.5	0.5
企画運営事務	0.2			0.4		0.6	0.5
資料貸出・閲覧業務	1.1			3.3	1.3	5.7	5.9
利用援助・普及事業	0.2			1.0		1.2	1.5
2019年度 特定事業 合計	2.0	0.0	0.0	5.1	1.3	8.4	8.6
2018年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	4.8	0.8	8.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館した影響などにより、2018年度より貸出点数は23,334点減少し、来館者数も30,172人減少しました。
- ◆3月の臨時休館の影響がない2020年2月までの来館者数は140,967人となり、2018年度の同期比△12%でした。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆高齢化が進む大規模団地内に所在し、近隣に保育園、小学校、中学校が多い立地環境にあります。貸出点数や来館者数は年々減少していることから、鶴川地域に必要な公共空間として鶴川図書館を地域の方々と考えることが必要です。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
- ◆地域に根差した図書館づくりの基軸として、鶴川団地商店街のイベントなどに引き続き、積極的に取り組んでいきます。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。				
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則				
	2017年度	2018年度	2019年度	施設の名称	町田市立金森図書館
蔵書数	133,448点	129,590点	125,710点	建設年月日	2000年7月4日
予約・リクエスト件数	126,331件	128,614件	125,158件		2017年度
貸出者数	189,876人	182,963人	162,148人	有形固定資産減価償却率	2018年度
					2019年度
					-
					-
					-

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆他部署や他機関と連携して、地域の課題解決に役立つための、資料提供やイベントを行っていく必要があります。
 ◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。
 ◇建築後18年が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。普段からの適正な管理と修繕により、施設の劣化を最小限に抑え、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えるため、営繕課と調整しながら施設管理を行っていく必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆様々な世代に向けて、読書普及や地域の課題解決、暮らしに役立つ事業を行います。
 ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	710,000	708,000	715,000	722,000	722,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	701,076	668,881	583,086		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	259,000	260,000	260,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	258,845	258,351	236,446		(2020年度)	

成果の説明 ◆「本は泣いている展示&マナーアップポスター・標語募集」や「大人のためのおはなし会を楽しむ初夏の会」、「いきいき音読会」など、さまざまな世代に向けたイベントを行いました。100人以上の参加者を得て、読書普及と図書館のPRを行いました。 ◆他部署と連携して、「乳がん予防」や「ゴミ袋サイズダウンチャレンジ」をはじめとした本の特集コーナーを設置し、利用者の課題解決に役立つ資料を紹介しました。
 ◆毎週水曜日他に子どもおはなし会(参加971人)の開催や、南第四小学校2年生73人の図書館見学や中学2年生の職場体験7人を受け入れました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	72,450	69,317	68,509	△ 808	地方税	0	0	0	0
物件費	34,335	34,161	46,299	12,138	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	6,974	6,801	19,878	13,077	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	432	1,027	260	△ 767	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	9	7	8	1	その他	143	386	361	△ 25
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	143	386	361	△ 25
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 120,536	△ 105,736	△ 118,688	△ 12,952
賞与・退職手当引当金繰入額	13,453	1,610	3,973	2,363	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	120,679	106,122	119,049	12,927	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 120,536	△ 105,736	△ 118,688	△ 12,952
特別費用 (g)	3,924	9,688	8,911	△ 777	特別収入 小計 (f)	0	5,802	81	△ 5,721
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,924	△ 3,886	△ 8,830	△ 4,944	当期収支差額 (e)+(h)	△ 124,460	△ 109,622	△ 127,518	△ 17,896

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 25,010千円 再任用職員 3,632千円 嘱託員 36,288千円 臨時職員 3,552千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 14,101千円 図書館システム導入委託料 12,785千円 図書館情報システムサービス使用料 5,366千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、808千円減少。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、12,138千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	みんなのトイレ便座修繕 179千円 女子トイレ修繕 36千円 網入ガラス修繕 34千円など	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	照明器具LED修繕などの緊急修繕がなく、767千円減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	125,710	947	128	物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが128円増加しました。
		2018	129,590	819	△ 85	
		2017	133,448	904		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	1,500	79,366	8,618	物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが8,618円増加しました。
		2018	1,500	70,748	△ 9,705	
		2017	1,500	80,453		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	275	432,905	79,165	物件費が増加したこと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が25日(△8.3%)減少したため、単位あたりコストが79,165円(22.3%)増加しました。
		2018	300	353,740	△ 48,523	
		2017	300	402,263		

④貸借対照表

(単位:千円)

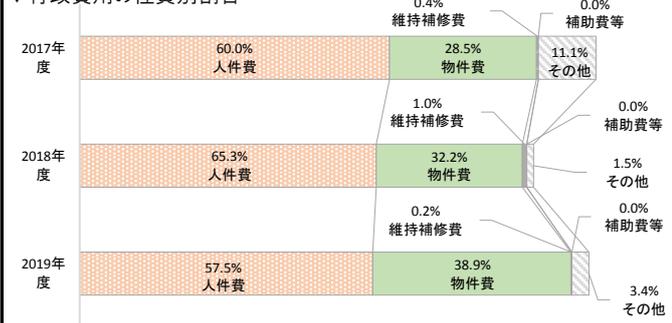
勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		1,610	1,730	120
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金		0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債		0	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金		1,610	1,730	120
	土地	0	0	0	その他の流動負債		0	0	0
	建物(取得価額)	0	0	0	固定負債		22,682	23,005	323
	建物減価償却累計額	0	0	0	地方債		0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金		22,682	23,005	323
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金		0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計		24,292	24,735	443
	その他の固定資産	176,707	172,865	△ 3,842	純資産		152,415	148,130	△ 4,285
資産の部合計	176,707	172,865	△ 3,842	純資産の部合計		152,415	148,130	△ 4,285	
				負債及び純資産の部合計		176,707	172,865	△ 3,842	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 172,865千円	決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	期初額から購入図書3,400千円、寄贈1,588千円、除籍△8,911千円、特別収入81千円の期中移動があり、図書資産額が3,842千円減少。	主な増減理由		主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	(単位:人)	
						2019 合計	2018 合計
図書館管理事務	0.2			0.7		0.9	0.9
各館庶務事務	0.7					0.7	0.6
企画運営事務	0.3			0.1		0.4	0.4
資料貸出・閲覧業務	1.7		1.0	10.9	1.9	15.5	15.5
利用援助・普及事業	0.1			1.3		1.4	1.4
2019年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	13.0	1.9	18.9	18.8
2018年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	13.0	1.8	18.8	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館した影響などにより、2018年度より貸出点数は85,795点減少し、来館者数も21,905人減少しました。
- ◆イベントや特集を多数行った結果、3月の臨時休館の影響がない2020年2月までの来館者数は230,040人となり、2018年度の同期比△2.1%であり、ほぼ同程度の来館者数でした。
- ◆みんなのトイレ便座を温水洗浄便座に替え、利便性の向上に努めました。 ◆図書館8館のうち、中央図書館に次いで貸出点数の多い図書館です。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆他部署や他機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供するために、イベントなどを行い、深めていく必要があります。
- ◇建築後19年が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていく必要があります。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
- ◆開館20年が経過したことを機に、さらに多くの人に利用していただけるように、イベントなどを行って、読書普及や地域の課題解決、生活に役立つ事業を行います。
- ◇老朽化が進む金森図書館を安心して利用してもらうために、防犯カメラ設備更新工事など、施設や設備の修繕を行います。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。										
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則										
	2017年度			2018年度			2019年度		施設の名称	町田市立忠生図書館	
	蔵書数			91,353点			95,372点		建設年月日		2015年2月27日
	予約・リクエスト件数			60,273件			59,453件				
	貸出者数			122,024人			107,089人		有形固定資産減価償却率	-	-

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆複合施設内の図書館として、施設利用者にも図書館の魅力をアピールする必要があります。
 - ◆近隣の学校の児童生徒等が多く訪れています。子どもが滞在しやすい場所づくりが必要です。
 - ◆近隣小中学校のほか、高等学校等にも図書館利用を働きかけ、若年層の利用を促進する必要があります。
- ◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆保健センターの乳幼児健診等の実施日に保護者の方々に、おはなし会などの図書館事業を宣伝し、利用促進を行います。
- ◆児童生徒の利用を増やすため、近隣小中学校、高等学校、子どもセンター「ただON」などと連携して、図書館の魅力をアピールしていきます。
- ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	520,000	557,000	562,000	568,000	568,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	551,266	517,858	455,391		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	218,000	219,000	219,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	211,263	217,757	200,851		(2020年度)	

成果説明 ◆保健所の乳幼児健診など保健センターの利用する日にあわせて、子どもおはなし会を実施したほか、他部署と協力しながら「こころの詩人八木重吉の魅力講演会」、「大人のためのおはなし会」の実施、自由民権資料館との共催事業「明治の風刺漫画の世界展」を実施し、市内の文学・歴史について紹介する事業を実施しました。 ◆近隣公立小中学校4校、公立高等学校2校、私立中・高等学校2校、子どもセンター「ただON」に訪問し、POPコンテストのPRを行い、294作品の応募がありました。

説明 ◆中学2年生の職場体験6人、都立高校インターンシップ(職場体験)5人を受け入れ、図書館の仕事を体験してもらいました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	66,995	65,534	62,824	△ 2,710	地方税	0	0	0	0
物件費	38,062	37,117	49,730	12,613	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	12,577	11,831	25,419	13,588	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	9	9	8	△ 1	その他	134	232	177	△ 55
減価償却費	11,065	11,065	11,065	0	行政収入 小計(a)	134	232	177	△ 55
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 120,047	△ 115,554	△ 125,180	△ 9,626
賞与・退職手当引当金繰入額	4,050	2,061	1,730	△ 331	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	120,181	115,786	125,357	9,571	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 120,047	△ 115,554	△ 125,180	△ 9,626
特別費用 (g)	378	454	630	176	特別収入 小計 (f)	74	374	4,173	3,799
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 304	△ 80	3,543	3,623	当期収支差額 (e)+(h)	△ 120,351	△ 115,634	△ 121,637	△ 6,003

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 25,010千円 再任用職員 4,924千円 嘱託員 29,555千円 臨時職員 3,308千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 14,917千円 図書館システム導入委託料 13,525千円 忠生市民センター総合管理委託料 8,581千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、2,710千円減少。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、12,613千円増加。
勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	95,372	1,314	47	物件費が増加したことにより、単位あたりコストが47円増加しました。
		2018	91,353	1,267	△ 114	
		2017	87,044	1,381		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	1,266	99,018	7,560	物件費が増加したことにより、単位あたりコストが7,560円増加しました。
		2018	1,266	91,458	△ 3,472	
		2017	1,266	94,930		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	275	455,844	71,173	物件費が増加したこと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が26日(△8.6%)減少したため、単位あたりコストが71,173円(18.5%)増加しました。
		2018	301	384,671	△ 15,932	
		2017	300	400,603		

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	木曾山崎図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。				
------	---	--	--	--	--

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則					
	2017年度	2018年度	2019年度	施設の名称	町田市立木曾山崎図書館	
	蔵書数	60,248点	57,583点	54,151点	建設年月日	1976年3月25日
	貸出者数	67,612人	69,865人	62,875人	有形固定資産減価償却率	2017年度 48.7% 2018年度 51.5% 2019年度 54.3%

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆市民参加型事業評価の指摘を受けて、より訪れやすい図書館にするため、高齢者や子どもが利用しやすい読書スペース等を確保する必要があります。
 ◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。
 ◇建築後40年以上が経過し、維持管理のための費用が必要です。適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に施設管理を行う必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆木曾山崎図書館の1階フロアを改修し、高齢者や子どもが利用しやすい読書スペースを設けます。
 ◆高齢者の利用が多い図書館という特徴を踏まえて、高齢者向けのイベント等を開催します。
 ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	220,000	235,000	237,000	240,000	240,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	213,265	222,670	202,115		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	196,000	197,000	197,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	168,224	196,371	199,870		(2020年度)	

成果
 ◆木曾山崎図書館の1階フロアを改修し、高齢者や子どもが利用しやすい読書スペースを設けました。
 ◆2019年度から高齢者向けのイベントとしてシルバー川柳を始めて、32句の投句がありました。
 ◆おはなし会・かんたん工作・ブックトークなどを積極的に行って、図書館の利用を促進しました。(参加者数 おはなし会717人、小さい子向けおはなし会72人、乳幼児向けおはなし会90人、大人のためのおはなし会39人、かんたん工作27人、ブックトーク240人)
 ◆近隣の小学生の施設見学を受け入れ図書館の仕事を紹介し、職場体験の中学生4校7人、インターンシップの高校生1校2人を受け入れました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A
人件費	45,576	47,747	44,735	△ 3,012	地方税	0	0	0	0
物件費	15,770	15,719	22,021	6,302	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	2,147	2,103	8,905	6,802	都支支出金	622	0	0	0
維持補修費	9,876	381	1,640	1,259	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	7	7	8	1	その他	58	105	93	△ 12
減価償却費	3,177	3,177	3,177	0	行政収入 小計(a)	680	105	93	△ 12
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 76,637	△ 70,450	△ 74,587	△ 4,137
賞与・退職手当引当金繰入額	2,911	3,524	3,099	△ 425	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	77,317	70,555	74,680	4,125	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 76,637	△ 70,450	△ 74,587	△ 4,137
特別費用 (g)	3,516	6,079	7,079	1,000	特別収入 小計 (f)	6	11	1	△ 10
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,510	△ 6,068	△ 7,078	△ 1,010	当期収支差額 (e)+(h)	△ 80,147	△ 76,518	△ 81,665	△ 5,147

②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 24,564千円 再任用職員 3,632千円 嘱託員 14,185千円 臨時職員 2,329千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,458千円 図書館システム導入委託料 6,762千円 図書館情報システムサービス使用料 2,838千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、3,012千円減少。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、6,302千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	排煙窓修繕 1,297千円 事務室照明器具修繕 191千円 本棚撤去修繕 112千円など	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	排煙窓修繕などの緊急修繕により1,259千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	54,151	1,379	154	物件費や維持補修費などが増加したことにより、単位あたりコストが154円増加しました。
		2018	57,583	1,225	△ 58	
		2017	60,248	1,283		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	321	232,648	12,850	物件費や維持補修費などが増加したことにより、単位あたりコストが12,850円増加しました。
		2018	321	219,798	△ 21,065	
		2017	321	240,863		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	275	271,564	37,162	物件費や維持補修費などが増加したこと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が26日(△8.6%)減少したため、単位あたりコストが37,162円(15.9%)増加しました。
		2018	301	234,402	△ 58,465	
		2017	264	292,867		

④貸借対照表

(単位:千円)

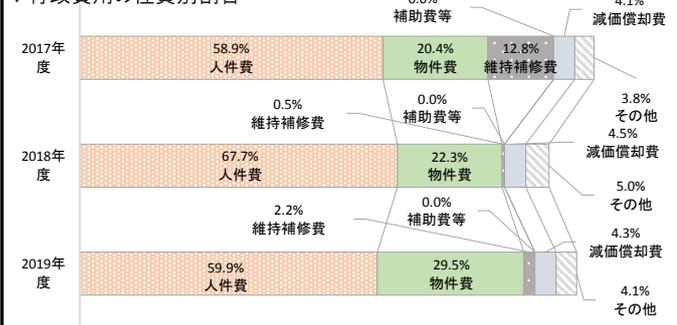
勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,639	1,699	60	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	54,979	51,802	△ 3,177	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,639	1,699	60
		建物(取得価額)	111,462	111,462	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	△ 56,483	△ 59,660	△ 3,177	固定負債	23,079	22,595	△ 484
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	23,079	22,595	△ 484	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	24,718	24,294	△ 424
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	107,446	100,322	△ 7,124	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産	77,185	72,814	△ 4,371	純資産の部合計	107,446	100,322	△ 7,124	
	資産の部合計	132,164	124,616	△ 7,548	負債及び純資産の部合計	132,164	124,616	△ 7,548	

⑤貸借対照表の特記事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	決算額の主な内訳	図書資産 72,814千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	減価償却により、3,177千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書1,664千円、寄贈1,043千円、除籍△7,079千円、特別収入1千円の期中移動があり、図書資産額が4,371千円減少。	主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

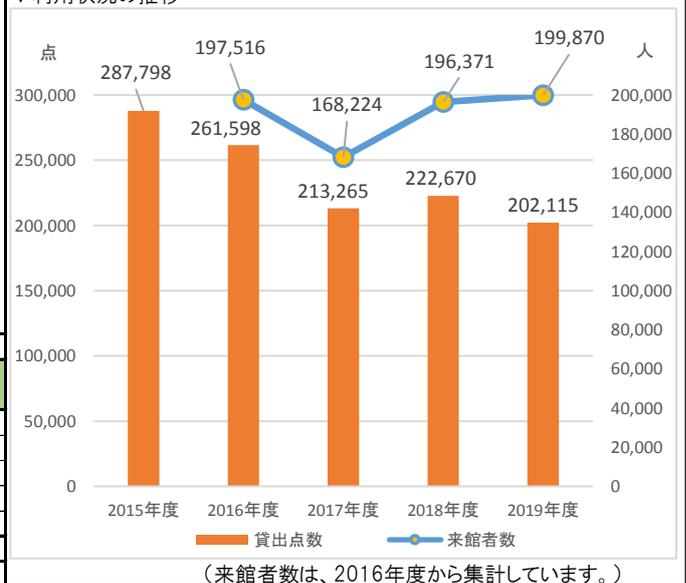


▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	(単位:人)	
						2019 合計	2018 合計
図書館管理事務	0.1					0.1	0.1
各館庶務事務	0.3					0.3	0.2
企画運営事務	0.9			0.1		1.0	1.0
資料貸出・閲覧業務	1.4		1.0	3.6	1.3	7.3	7.3
利用援助・普及事業	0.3			1.3		1.6	1.9
2019年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	5.0	1.3	10.3	10.5
2018年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	6.0	0.5	10.5	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館した影響などにより、2018年度より貸出点数は20,555点減少しました。
- ◆3月の臨時休館の影響がありましたが、地域に密着した図書館ということもあり、何度も足を運んでいただけていることから、来館者数は2018年度と比べ3,499人増加しました。
- ◆排煙窓の修繕などにより、維持補修費は2018年度より1,259千円増加しています。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆地域の方々から愛される何度も訪れたくなる図書館づくりを進める必要があります。
- ◇建築後40年以上が経過していることから、安全に施設を利用していただくため、適正な維持管理を行う必要があります。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
- ◆来館者数の目標達成に向けて、高齢者や子ども向けのイベントを効果的に行います。
- ◆必要な修繕等を行い、施設の維持管理を行います。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	--------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。
------	--

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則						
		2017年度	2018年度	2019年度	施設の名称	町田市立堺図書館		
	蔵書数	73,635点	70,688点	68,053点	建設年月日	1983年9月25日		
	予約・リクエスト件数	19,911件	24,511件	26,890件		2017年度	2018年度	2019年度
	貸出者数	23,378人	38,397人	35,937人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆移動図書館の利用が伸び悩んでいるため、利用状況を分析し、対応策を検討する必要があります。
 ◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆堺図書館とさるびあ図書館の移動図書館3台の巡回運行を見直し、移動図書館の利用促進を図ります。
 ◆月3回のおはなし会の他、子ども生活部と連携して、堺地域子育て支援センターやこうさぎ保育園の園児向けにはなし会を行って、子ども読書活動を推進します。
 ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。
 ◆2019年4月から毎月、貸出数の少ない図書資料の閲覧および貸出を促進するため、テーマに沿った特集本コーナーを設置します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	100,000	252,000	255,000	257,000	257,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(移動図書館1台の貸出点数を含む)
		実績	104,036	175,079	164,318		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	73,000	74,000	74,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	35,666	73,589	67,791		(2020年度)	

成果の明◆移動図書館1台が22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。
 ◆夏休み子どもフェアに合わせてスタンプラリー、工作会、おはなし会を開催するなど、子ども向け事業の充実をはかり、392人の参加がありました。
 ◆堺中学校を訪問し、POPコンテストのPRを行い、66作品の応募がありました。
 ◆複合施設内の図書館であるという利点を活かし、地域主催の堺市民センターまつりに参加して、地域コミュニティの振興に寄与しました。
 ◆相原小学校2年生62人の図書館見学を受け入れて、図書館の仕事を紹介しました。また、職場体験の中学2年生6人を受け入れました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額	勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額	
		A	B	B-A			A	B	B-A	
人件費	51,275	55,432	56,014	582	地方税	0	0	0	0	
物件費	22,231	15,819	22,566	6,747	国庫支出金	0	0	0	0	
行政費用	うち委託料	9,354	3,033	10,181	7,148	都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	229	172	15	△ 157	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	7	10	10	0	その他	35	110	89	△ 21
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	35	110	89	△ 21
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 75,299	△ 83,421	△ 83,261	160
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,592	12,098	4,745	△ 7,353	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	75,334	83,531	83,350	△ 181	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 75,299	△ 83,421	△ 83,261	160
	特別費用 (g)	1,916	6,109	5,406	△ 703	特別収入 小計 (f)	6,611	78	22	△ 56
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	4,695	△ 6,031	△ 5,384	647	当期収支差額 (e)+(h)	△ 70,604	△ 89,452	△ 88,645	807

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 33,049千円 嘱託員 22,256千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,458千円 図書館システム導入委託料 6,762千円 図書館情報システムサービス使用料 2,838千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、582千円増加。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、6,747千円増加。

勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	68,053	1,225	43	人件費・物件費は増加しましたが、維持補修費や賞与・退職手当引当金繰入額が減少したことにより、単位あたりコストが43円増加しました。
		2018	70,688	1,182	159	
		2017	73,635	1,023		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	430	193,837	△ 421	人件費・物件費は増加しましたが、維持補修費や賞与・退職手当引当金繰入額が減少したことにより、単位あたりコストが421円減少しました。
		2018	430	194,258	19,063	
		2017	430	175,195		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	275	303,091	25,579	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が26日(△8.6%)減少したため、単位あたりコストが25,579円(9.2%)増加しました。
		2018	301	277,512	△ 330,020	
		2017	124	607,532		

④貸借対照表

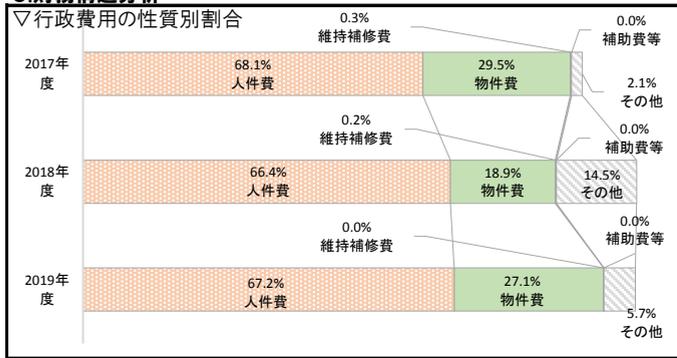
(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		2,164	2,286	122
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	2,164	2,286	122	
	土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0	
	建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	30,477	30,400	△ 77	
	建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0	
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	30,477	30,400	△ 77	
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0	
	土地	0	0	0	負債の部合計	32,641	32,686	45	
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	95,994	92,973	△ 3,021	
工作物減価償却累計額	0	0	0						
無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	128,635	125,659	△ 2,976	純資産の部合計	95,994	92,973	△ 3,021		
資産の部合計	128,635	125,659	△ 2,976	負債及び純資産の部合計	128,635	125,659	△ 2,976		

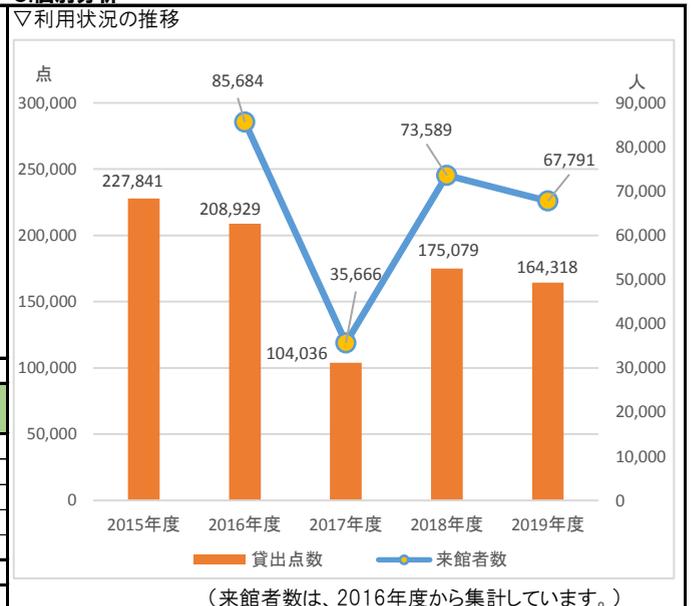
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 125,659千円	特になし
主な増減理由	期初額から購入図書1,616千円、寄贈792千円、除籍△5,406千円、特別収入22千円の期中移動があり、図書資産額が2,976千円減少。	特になし

5.財務構造分析



6.個別分析



業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2019		2018	
		フルタイム	(短時間)			合計	合計		
図書館管理事務	0.2			0.1		0.3	0.3		
各館庶務事務	0.8					0.8	0.9		
企画運営事務	0.6			0.1		0.7	0.6		
資料貸出・閲覧業務	2.3			7.2		9.5	9.5		
利用援助・普及事業	0.1			0.4		0.5	0.4		
2019年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	7.8	0.0	11.8	11.7		
2018年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	7.7	0.0	11.7	11.7		

7.総括

①成果および財務の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館した影響などにより、2018年度より貸出点数は10,761点減少し、来館者数も5,798人減少しました。 ◆地域団体による絵画等の展示会を毎月行い、SNSでの周知も行いました。
◆特集「オリンピック・相原の記憶展」では、1964年の東京オリンピック時に相原付近を聖火ランナーが走った写真やオリンピック関連の図書の展示を行い、時代劇文庫などの特集本コーナーを設置したことなどにより、3月の臨時休館の影響がない2020年2月までの来館者数は66,368人となり、2018年度の同期比△1.9%であり、ほぼ同程度の来館者数でした。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
◆移動図書館の貸出点数は、利用者のライフスタイルの多様化や変化により伸び悩んでいます。利用状況を分析し、対応策を検討する必要があります。
◆堺地域の活動拠点の図書館として、住民により密着した貢献ができる取組が必要です。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
◆堺図書館とさるびあ図書館の移動図書館3台の巡回運行の見直しを行い、幼稚園、保育園やイベント等へ展開して利用促進を図ります。
◆月3回のおはなし会その他、堺地域子育て相談センターやこうさぎ保育園の園児向けにはおはなし会を行って、子ども読書活動を推進します。
◆毎月、貸出数の少ない図書資料の閲覧および貸出を促進するため、テーマに沿った特集本コーナーを設置します。

2019年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。									
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則									
	2017年度			2018年度			2019年度		施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館
	蔵書数	99,002点	102,484点	106,282点	建設年月日				2012年8月31日	
	予約・リクエスト件数	103,067件	104,759件	101,980件	2017年度		2018年度	2019年度		
	貸出者数	174,622人	170,687人	153,175人	有形固定資産減価償却率		-	-	-	

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆鶴川地域の中規模図書館という位置や駅前図書館としての立地を活かして、地域住民のニーズと通勤・通学者の動向を探りながら、より魅力的な蔵書構成にすることが必要です。
- ◆複合施設内の図書館として、他部署や他機関と連携したイベントを行うことで、より一層図書館を利用してもらえるような取り組みが必要です。
- ◆鶴川地域図書館内で連携して、鶴川図書館と共同で事業を行うなど、地域活性化と利用者増に向けた試みが必要です。
- ◇「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえ、図書館サービスの見直し、図書館資源の再配分、図書館運営体制について検討する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆ポブリホール鶴川で活動を行っている鶴川地区協議会と連携して、3水スマイルラウンジのまなびのひろばに合わせた特集を毎月行います。
- ◆複合施設内の町田市文化・国際交流財団や鶴川地区協議会、地域で活動している団体と連携して、鶴川地域の魅力を再発見するツアーや鶴川deハロウィンウォーキング2019に協力し、相乗効果で、来館者を増やします。
- ◆他機関と連携を深め、認知症特集コーナーを毎年設置したり、特殊詐欺特集を行うなど、鶴川地域の課題解決に寄与します。
- ◆「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	560,000	547,000	552,000	558,000	558,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	541,438	519,784	463,064		(2020年度)	
来館者数	人	目標	-	-	335,000	336,000	336,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	343,326	334,522	307,459		(2020年度)	

- 成果の説明
- ◆鶴川地区協議会と連携した特殊詐欺防止特集などを17回、和光大学などと連携した子ども虐待防止などの特集を11回行い、連携特集した本の貸出数は520冊で、通常貸出時より増加し、問い合わせがあるなど反響がありました。また、図書館で企画した特集も52回行いました。
 - ◆市民ホールで行われた「おぼけのアッチ」公演観覧者と「鶴川地域の魅力再発見ツアー」参加者に鶴川駅前図書館への来館を促すために、市民ホール公演原作者の角野栄子特集や鶴川を紹介する資料特集を行い、相乗効果で市民の関心を引く試みとしました。
 - ◆夏休みや11月にイベントや多くの特集を組んだことにより、8月・11月の来館者数の増加につながりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額	勘定科目	2017年度	2018年度	2019年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	71,075	70,128	70,854	726	地方税	0	0	0	0
物件費	47,580	47,884	61,340	13,456	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	21,430	21,929	36,223	14,294	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	100	567	210	△ 357	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	9	10	10	0	その他	104	263	314	51
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	104	263	314	51
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 122,336	△ 122,164	△ 136,443	△ 14,279
賞与・退職手当引当金繰入額	3,676	3,838	4,343	505	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	122,440	122,427	136,757	14,330	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 122,336	△ 122,164	△ 136,443	△ 14,279
特別費用 (g)	527	863	772	△ 91	特別収入 小計 (f)	74	0	118	118
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 453	△ 863	△ 654	209	当期収支差額 (e)+(h)	△ 122,789	△ 123,027	△ 137,097	△ 14,070

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 32,603千円 再任用職員 4,924千円 嘱託員 30,930千円 臨時職員 2,362千円など	決算額の主な内訳	総合管理業務委託料 21,133千円 ICタグカラーバーコードシステム利用料 14,917千円 図書館システム導入委託料 13,525千円など
主な増減理由	職員構成の変化などにより、726千円増加。	主な増減理由	図書館システム更改に伴うシステム導入委託料の増加などにより、13,456千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	誘導灯内バッテリー及びランプ交換修繕 128千円 女性トイレ・男性トイレ修理 57千円 図書館内照明器具不具合修繕 25千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	大規模修繕が無かったことにより、357千円減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2019	106,282	1,287	92	物件費が増加したことにより、単位あたりコストが92円増加しました。
		2018	102,484	1,195	△ 42	
		2017	99,002	1,237		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2019	1,344	101,754	10,662	物件費が増加したことにより、単位あたりコストが10,662円増加しました。
		2018	1,344	91,092	△ 9	
		2017	1,344	91,101		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	275	497,298	89,208	物件費が増加したことや、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が25日(△8.3%)減少したため、単位あたりコストが89,208円(21.9%)増加しました。
		2018	300	408,090	△ 43	
		2017	300	408,133		

④貸借対照表

(単位:千円)

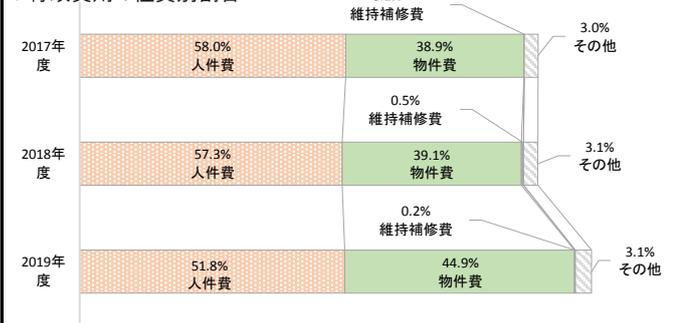
勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	0	2,255	2,255
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	0	2,255	2,255
	土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	0	29,989	29,989
	建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	0	29,989	29,989
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	0	32,244	32,244
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	141,216	113,139	△ 28,077
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	141,216	145,383	4,167	純資産の部合計	141,216	113,139	△ 28,077	
資産の部合計	141,216	145,383	4,167	負債及び純資産の部合計	141,216	145,383	4,167	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の 主な内訳	図書資産 145,383千円	決算額の 主な内訳		決算額の 主な内訳	
主な 増減理由	期初額から購入図書3,437千円、寄贈1,383千円、除籍△771千円、特別収入118千円の期中移動があり、図書資産額が4,167千円増加。	主な 増減理由		主な 増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

業務内容	(単位:人)					2019 合計	2018 合計
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時		
図書館管理事務	0.5			0.4		0.9	0.7
各館庶務事務	0.6			0.1		0.7	0.6
企画運営事務	0.5			0.3		0.8	0.7
資料貸出・閲覧業務	2.0	1.0		9.3	1.2	13.5	14.0
利用援助・普及事業	0.4			0.9		1.3	0.9
2019年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	11.0	1.2	17.2	16.9
2018年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	10.0	1.9	16.9	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休館した影響などにより、2018年度より貸出点数は56,720点減少し、来館者数も27,063人減少しました。 ◆イベントや特集を多数行った結果、3月の臨時休館の影響がない2020年2月までの来館者数は302,071人となり、2018年度の同期比△1.0%であり、ほぼ同程度の来館者数でした。 ◆夏休みやハロウィンイベント時に子供向けスタンプラリー(にんぎものをさがせ)を実施し、夏休みは856人、ハロウィンは181人の参加がありました。 ◆新たに「英語多読コーナー」を設置しました。 ◆11月に和光大学とコラボした子ども虐待防止特集や児童文学作家の角野栄子特集を行い、来館者数は2018年度と比べ792人増加しました。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。 ◆指定管理者制度導入に向けて、円滑な準備を行う必要があります。 ◆鶴川地域の中規模図書館であり、駅前図書館の立地を活かし、地域住民のニーズと通勤・通学者の動向を探りながら、より魅力的な蔵書構成にすることが必要です。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。特に2022年度の指定管理者制度導入に向けた準備を行います。 ◆他機関と連携を深め、認知症コーナーを常設したり、特殊詐欺防止特集を行うなど、鶴川地域の課題解決に寄与します。 ◆複合施設内の町田市文化・国際交流財団や鶴川地区協議会、地域で活動している団体と連携して、プラネタリウムイベントや鶴川deハロウィンイベントに協力し、相乗の効果で、来館者を増やします。 ◆ポプリホール鶴川で活動を行っている鶴川地区協議会と連携して、3水スマイルラウンジのまなびのひろばに合わせた特集を毎月行います。

2019年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
				事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

1.組織概要

組織の使命 町田市にゆかりの文学者の著作、原稿、愛用品その他の資料及び市民の文学的著作等を収集・保存し、展示や講座・講演会などを通して市民に発信し、文学に関する調査研究及び知識の普及活動を行うとともに、それを支援することにより市民が文学にふれあえる機会をつくります。

所管に関する事 ◆文学資料の収集、保存及び展示に関する事 ◆文学館資料及び図書館資料の館内閲覧及び館外貸出しに関する事 ◆文学に関する調査研究に関する事 ◆講演会、講座、映画会等の開催に関する事 ◆市民の文学に関する活動の援助に関する事 ◆文学に関する広報活動に関する事 ◆文学に関する出版物等の作成及び販売に関する事 ◆文学資料の寄贈及び寄託に関する事 ◆図書館その他の教育機関との相互協力に関する事 ◆文学館の施設及び設備の利用及び維持管理に関する事 ◆町田市民文学館運営協議会に関する事

基本情報	根拠法令等 町田市民文学館条例、町田市民文学館条例施行規則					
	利用料金収入 (単位:千円)	2,208	4,018	2,639	施設の名称	町田市民文学館ことばらんど
	受益者負担比率	1.5%	2.9%	1.9%	建設年月日	2006年6月1日
	来館者数 (単位:人)	61,589	61,713	60,602	有形固定資産減価償却率	2017年度 2018年度 2019年度 22.1% 24.1% 26.1%

2.2018年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆展覧会観覧者を年代別にみると、夏を除いてどの展覧会も40代以上が8割を超えており、若い世代にも文学館に足を運んでもらえるような企画や広報を検討する必要があります。
◇「町田市民文学館のあり方見直し方針」に基づき、施設の効率的・効果的運営手法について具体的な方向性を検討する必要があります。
◇施設の空調設備が更新時期を迎えており、関連部署と連携して修繕計画を立てる必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆若い世代に文学やことばに親しんでもらえるよう、柔軟で多様な展覧会やイベントを実施します。
◇類似施設の調査分析を行い、また関連部署と連携しながら見直し方針の具現化に向けてさらに検討を進めます。
◇空調設備の修繕計画について、工事関連部署と情報共有を図っていきます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	25,000	25,000	24,000	16,000	25,000	原則年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	23,875	27,066	27,690		(2021年度)	
新規観覧者割合	%	目標	-	-	55.0	44.0	60.0	展覧会実施により、初めて来館した人の割合(アンケート調査結果)
		実績	44.3	47.7	58.0		(2021年度)	

成果 ◆展覧会観覧者数は、春の「大日本タイポ総合展」が開館以来2番目となる12,790人を記録し、市内外から多くの若い世代の方にご来館いただきました。また、冬の「三島由紀夫展」では新型コロナウイルスの拡大防止のため会期を約1ヶ月短縮したものの、2018年度冬展の約1.4倍の4,172人の観覧者を獲得することが出来ました。◆小学生から高校生を対象に、「10代のためのカンタン小説教室」を実施しました。
説明 ◆公式Twitterのツイート数は607件で、2018年度に比べ18.1ポイント増加し、情報発信数を着実に伸ばすことが出来ました。
明 ◆新規観覧者割合は、2018年度に比べ10.3ポイント増加し、町田市民文学館をより多くの方に知っていただくことが出来ました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	勘定科目	2017年度	2018年度 A	2019年度 B	差額 B-A	
行政費用	人件費	80,885	77,308	76,528	△ 780	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	2,910	3,065	2,435	△ 630	保険料	0	0	0	0
	物件費	37,256	37,532	40,978	3,446	国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	17,374	17,261	20,243	2,982	都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	3,070	2,446	219	△ 2,227	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	2,208	4,018	2,639	△ 1,379
	補助費等	2,279	2,125	2,032	△ 93	その他	841	1,032	684	△ 348
	減価償却費	13,423	13,423	13,423	0	行政収入 小計(a)	3,049	5,050	3,323	△ 1,727
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 140,743	△ 135,387	△ 138,481	△ 3,094
	賞与・退職手当引当金繰入額	6,879	7,603	8,624	1,021	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	143,792	140,437	141,804	1,367	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 140,743	△ 135,387	△ 138,481	△ 3,094	
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0	
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 140,743	△ 135,387	△ 138,481	△ 3,094	

②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	常勤職員 55,245千円 嘱託員 16,926千円 臨時職員 4,105千円 運営協議会委員報酬 252千円	決算額の主な内訳	サロントーブル脚修繕 110千円 1階女子トイレ自動手洗い器修繕 35千円 2階展示室錠前修繕 32千円 車止め修繕 21千円など
主な増減理由	時間外勤務手当が減少したこと、嘱託員が12月末で1名退職したこと等により780千円減少。	主な増減理由	修繕が少なかったこと等により2,227千円減少。
勘定科目	物件費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	光熱水費 8,455千円 作成委託料 4,765千円 施設等管理委託料 4,497千円 システム導入委託料 3,592千円など	決算額の主な内訳	文学館施設使用料 1,834千円 展覧会観覧料 719千円 附属設備使用料 86千円
主な増減理由	システム導入委託料の増加等により3,446千円増加。	主な増減理由	有料展覧会の観覧者数の減少等により1,379千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
町田市民文学館来館者数1人あたりコスト	人	2019	60,602	2,340	64	物件費の増加により行政費用が増加したため、来館者1人あたりのコストは64円増加しました。
		2018	61,713	2,276	△ 59	
		2017	61,589	2,335		
開館日数1日あたりコスト	日	2019	281	504,641	41,153	行政費用の増加、及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館24日(△8%)のため、開館日数1日あたりのコストは41,153円(+9%)増加しました。
		2018	303	463,488	△ 15,819	
		2017	300	479,307		

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度末 A	2019年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	3,479	3,739	260
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	730,984	717,561	△ 13,423	地方債	0	0	0
	土地	220,902	220,902	0	賞与引当金	3,479	3,739	260
	建物(取得価額)	671,161	671,161	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 161,079	△ 174,502	△ 13,423	固定負債	48,992	49,727	735
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	48,992	49,727	735
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	52,471	53,466	995
工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	678,513	664,095	△ 14,418	
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	678,513	664,095	△ 14,418	
その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	730,984	717,561	△ 13,423	
資産の部合計	730,984	717,561	△ 13,423					

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	町田市文学館ことばらんど 220,902千円	決算額の主な内訳	町田市文学館ことばらんど 671,161千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、13,423千円減少。	主な増減理由	

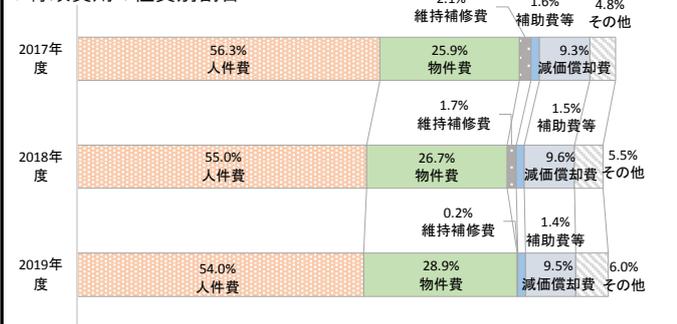
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	3,323	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	127,386	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 124,063	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 124,063
				一般財源充当調整額	124,063

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



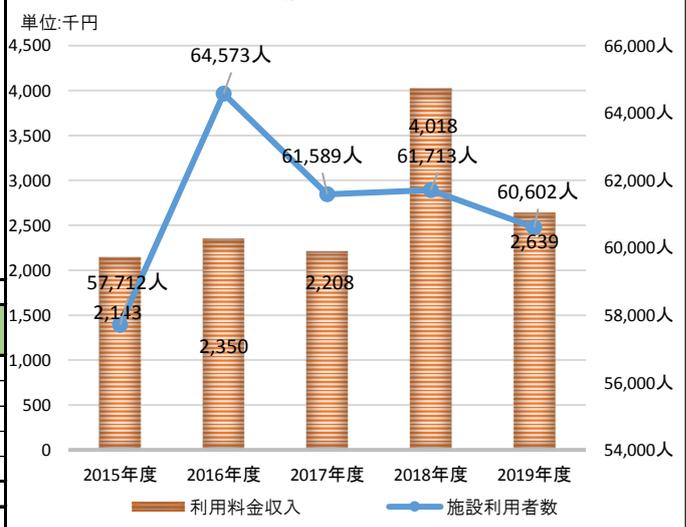
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2019 合計	2018 合計
管理事務	2.8			0.2		3.0	2.7
管理事務(施設等貸出)	0.1					0.1	0.1
展示事業	1.9			1.4	1.1	4.4	4.8
学習事業	0.6			0.8	0.4	1.8	1.8
資料収集事業	0.6			3.5	0.6	4.7	4.9
2019年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	5.9	2.1	14.0	14.3
2018年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	6.2	2.1	14.3	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3月2日から31日まで臨時休館しました。これに伴い、施設貸出・管理に伴う委託料が390千円減少しました。
- ◆行政費用の性質別割合では、人件費が2年連続減少していますが、物件費が2018年度に比べ2.2ポイント増加しました。物件費の増加は、主に図書館システム導入に係る委託料の増加によるものです。
- ◆利用料金収入は、2018年度に比べ1,379千円減少しました。これは、主に展覧会観覧料が2018年度に比べ1,266千円減少したことによるものです。

②2019年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会事業や学習事業を従来と同じ手法で実施することが難しくなっています。インターネットやTwitterを活用して、市民が家にいながら町田の文学に親しむ機会を提供するなど、事業の実施方法を見直す必要があります。
- ◇施設の運営について、複数施設の連携を模索するとともに、単独館での効率化についても検討する必要があります。
- ◇建設から15年を迎えて、空調設備の改修や照明をLED化するなど、規模の大きな修繕が必要となっています。

③課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆Twitterで町田が登場する文学の紹介「#おうちで文学」を発信したり、展覧会の動画を配信するなど、新たにインターネットを活用した事業を実施します。
- ◆新型コロナの影響により実施できなくなった業務に替わり、文学館の収蔵資料の整理に注力し、市民や研究者に向けてそれらを公開します。
- ◇施設運営について、関連部署と情報共有を図るとともに、直営での効率化についても検討を進め、具体的な施設の管理運営手法を決定します。
- ◇施設設備の日常の安全点検を行いながら、関係部署と連携し、空調設備等の修繕計画策定に取り組みます。